

地域福祉計画・地域福祉活動計画  
改定のためのアンケート調査報告書

令和7年2月  
佐賀県佐賀市



# 目 次

## I 調査概要

1 調査目的.....	3
2 調査概要.....	3
3 回収状況.....	3
4 報告書利用上の注意.....	3

## II 調査結果

1 あなた自身のことについて.....	7
2 「地域」との関わりについて.....	12
3 あなたの「福祉」に対する考えについて.....	16
4 地域活動や福祉に関するボランティアについて.....	21
5 「福祉サービス」に関することについて.....	26
6 地域福祉に関わる機関や団体、制度について.....	30
7 災害時の避難について.....	33
8 生活困窮者の自立支援について.....	37
9 外国籍の方との関わりについて.....	38
10 「再犯防止」に関することについて.....	40
11 今後の地域福祉のあり方について.....	47

## III 調査総括

1 あなた自身のことについて.....	59
2 「地域」との関わりについて.....	59
3 あなたの「福祉」に対する考えについて.....	60
4 地域活動や福祉に関するボランティアについて.....	60
5 「福祉サービス」に関することについて.....	61
6 地域福祉に関わる機関や団体、制度について.....	61
7 災害時の避難について.....	61
8 生活困窮者の自立支援について.....	62
9 外国籍の方との関わりについて.....	62
10 再犯防止に関することについて.....	62
11 今後の地域福祉のあり方について.....	63



# I 調查概要



## 1 調査目的

本調査は、「第5期佐賀市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定するにあたり、地域福祉推進についての市民のご意見を伺い、今後の福祉施策を展開するための基礎資料とするものです。

## 2 調査概要

- (1) 調査対象者 佐賀市にお住いの 18 歳以上の方及び佐賀市に 1 年以上居住する方の中から 5,000 人を無作為抽出
- (2) 調査方法 郵送による配布・回収調査（オンライン回答を併用）
- (3) 調査時期 令和6年11月～12月

## 3 回収状況

調査対象者数	内訳	回収数	回収率
5,000	全体	1,457	29.1%
	郵送	1,092	21.8%
	オンライン	365	7.3%

※ 郵送回答とオンラインで、重複回答の発生はありませんでした。

## 4 報告書利用上の注意

- 端数処理の関係上、構成比（％）の計が 100％とならないことがあります。
- 図表の構成比（％）は小数第 2 位以下を四捨五入したものです。
- 複数回答の設問は、すべての構成比（％）を合計すると 100％を超える場合があります。
- 図中の“n=”は、各設問の対象者数を表しています。
- 表の上段は回答数、下段は構成比を表しています。



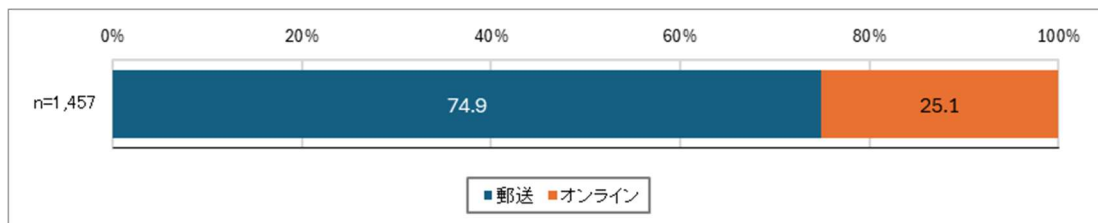
## Ⅱ 調查結果



# 1 あなた自身のことについて

## ● アンケートの回答方法

本調査から、郵送による回答に加えて、オンラインによる回答を併用しました。  
その結果、郵送による回答が74.9%、オンライン回答が25.1%となっています。

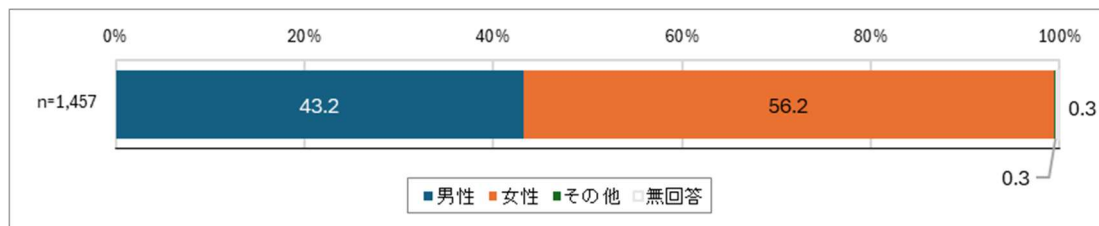


回答方法の状況を見ると、郵送とオンラインがほぼ3：1となっています。  
年齢別では、年齢が高くなるほど郵送が多く、年齢が低くなるほどオンラインが多くなっています。

属性	区分	全体	郵送	オンライン
性別	男性	629	483	146
		100.0	76.8	23.2
	女性	819	603	216
		100.0	73.6	26.4
	その他	4	1	3
	100.0	25.0	75.0	
	無回答	5	5	0
		100.0	100.0	0.0
年齢	10歳代	63	23	40
		100.0	36.5	63.5
	20歳代	103	41	62
		100.0	39.8	60.2
	30歳代	130	62	68
		100.0	47.7	52.3
	40歳代	183	95	88
		100.0	51.9	48.1
	50歳代	222	156	66
	100.0	70.3	29.7	
60歳代	305	276	29	
	100.0	90.5	9.5	
70歳代	444	432	12	
	100.0	97.3	2.7	
	無回答	7	7	0
		100.0	100.0	0.0
市町村別	旧佐賀市	959	699	260
		100.0	72.9	27.1
	諸富町	55	41	14
		100.0	74.5	25.5
	大和町	154	117	37
		100.0	76.0	24.0
	富士町	57	48	9
		100.0	84.2	15.8
	三瀬町	21	18	3
		100.0	85.7	14.3
	川副町	127	100	27
	100.0	78.7	21.3	
東与賀町	37	28	9	
	100.0	75.7	24.3	
久保田町	39	33	6	
	100.0	84.6	15.4	
	無回答	8	8	0
		100.0	100.0	0.0

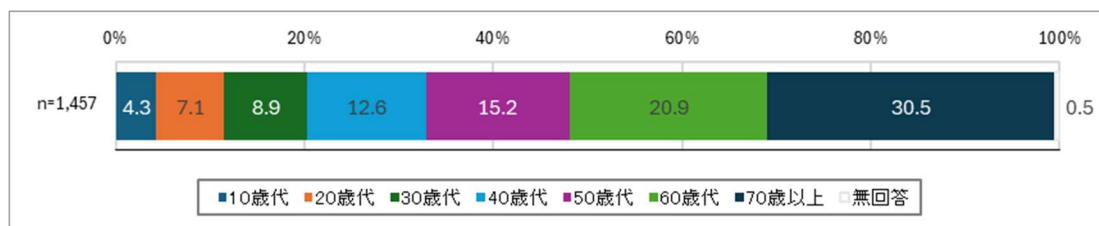
## F 1 性別

「男性」が43.2%、「女性」が56.2%、「その他」が0.3%となっています。



## F 2 年齢

「70歳以上」が30.5%で最も多く、次いで「60歳代」20.9%、「50歳代」15.2%と年齢が高いほど割合が多くなっています。



## F3-1 小学校区

「高木瀬小学校区」が5.3%で最も多く、次いで「兵庫小学校区」4.7%、「北川副小学校区」4.6%の順となっています。

校区	件数	割合	校区	件数	割合	校区	件数	割合	
勸興	46	3.2	鍋島	66	4.5	春日北	31	2.1	
循誘	52	3.6	金立	28	1.9	富士	26	1.8	
日新	46	3.2	久保泉	36	2.5	北山	15	1.0	
赤松	60	4.1	蓮池	30	2.1	北山東部	16	1.1	
神野	63	4.3	新栄	59	4.0	三瀬	21	1.4	
西与賀	38	2.6	若楠	52	3.6	南川副	32	2.2	
嘉瀬	40	2.7	開成	41	2.8	西川副	39	2.7	
巨勢	36	2.5	諸富北	30	2.1	中川副	30	2.1	
兵庫	69	4.7	諸富南	25	1.7	大詫間	26	1.8	
高木瀬	77	5.3	春日	64	4.4	東与賀	37	2.5	
北川副	67	4.6	川上	35	2.4	久保田	39	2.7	
本庄	53	3.6	松梅	24	1.6	無回答	8	0.5	
							サンプル数	1,457	100.0

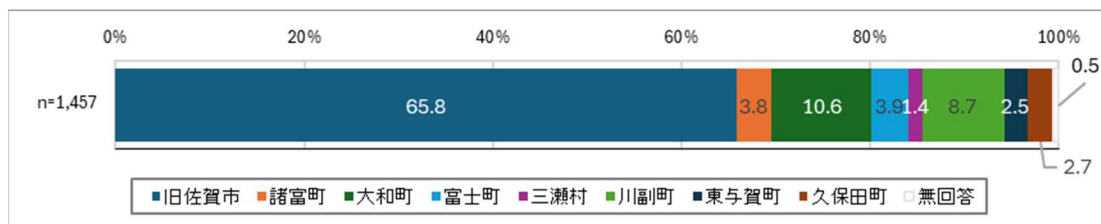
### F3-2 中学校区

「城東」が10.8%で最も多く、次いで「昭栄」10.0%、「城北」と「大和」8.9%の順となっています。

校区	件数	割合	校区	件数	割合
成章	109	7.5	諸富	55	3.8
城東	157	10.8	大和	130	8.9
昭栄	145	10.0	松梅	24	1.6
城南	127	8.7	富士	26	1.8
城西	91	6.2	北山	31	2.1
城北	129	8.9	三瀬	21	1.4
鍋島	107	7.3	川副	127	8.7
金泉	64	4.4	東与賀	37	2.5
芙蓉	30	2.1	思斉	39	2.7
			無回答	8	0.5
			サンプル数	1,457	100.0

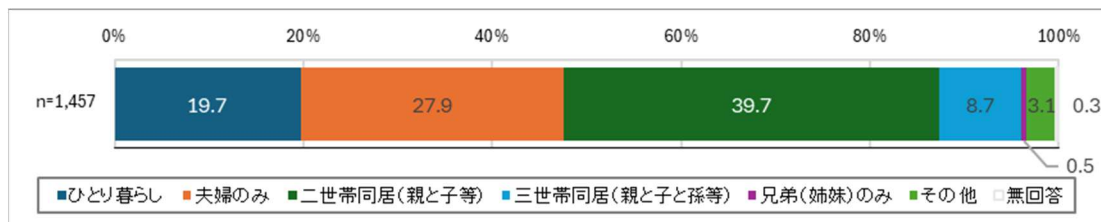
### F3-3 旧市町村別

「旧佐賀市」が65.8%で最も多く、次いで「大和町」10.6%、「川副町」8.7%の順となっています。



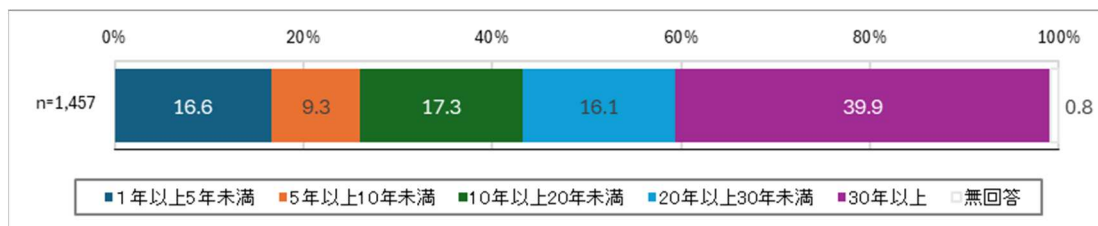
### F4 家族構成

「二世帯同居（親と子等）」が39.7%で最も多く、次いで「夫婦のみ」27.9%、「ひとり暮らし」19.7%の順となっています。



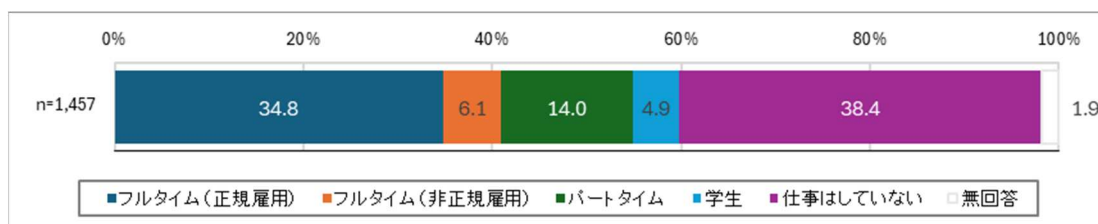
## F5 居住年数

「30年以上」が39.9%で最も多く、次いで「10年以上20年未満」17.3%、「1年以上5年未満」16.6%の順となっています。



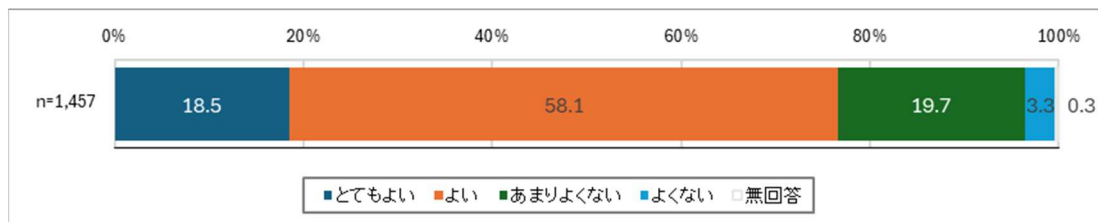
## F6 就労状況

「仕事はしていない」が38.4%で最も多く、次いで「フルタイム(正規雇用)」34.8%、「パートタイム」14.0%の順となっています。



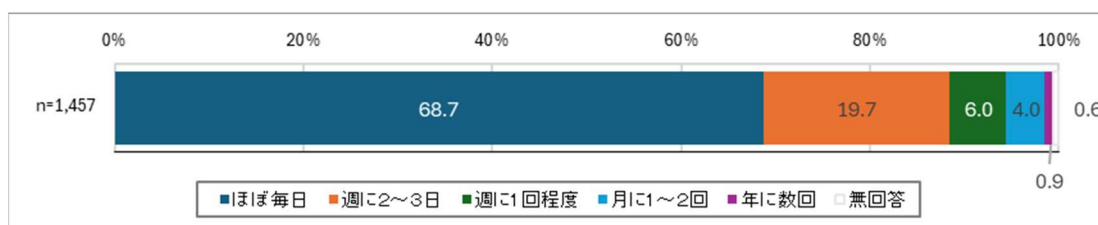
## F7 現在の健康状態

「よい」が58.1%で最も多く、次いで「あまりよくない」19.7%、「とてもよい」18.5%の順となっています。



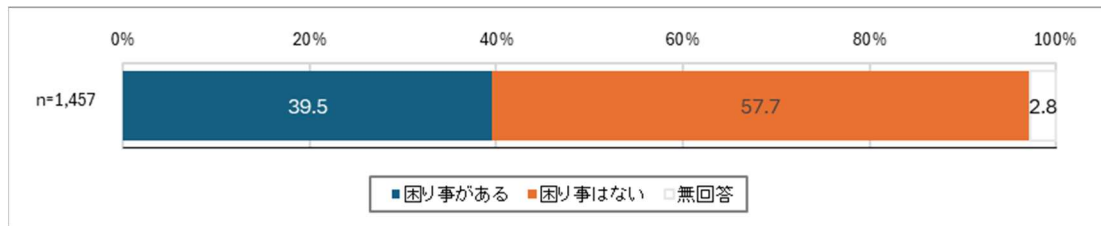
## F8 外出の頻度

「ほぼ毎日」が68.7%で最も多く、次いで「週に2~3日」19.7%、「週に1回程度」6.0%の順となっています。



## F9 生活上の困り事

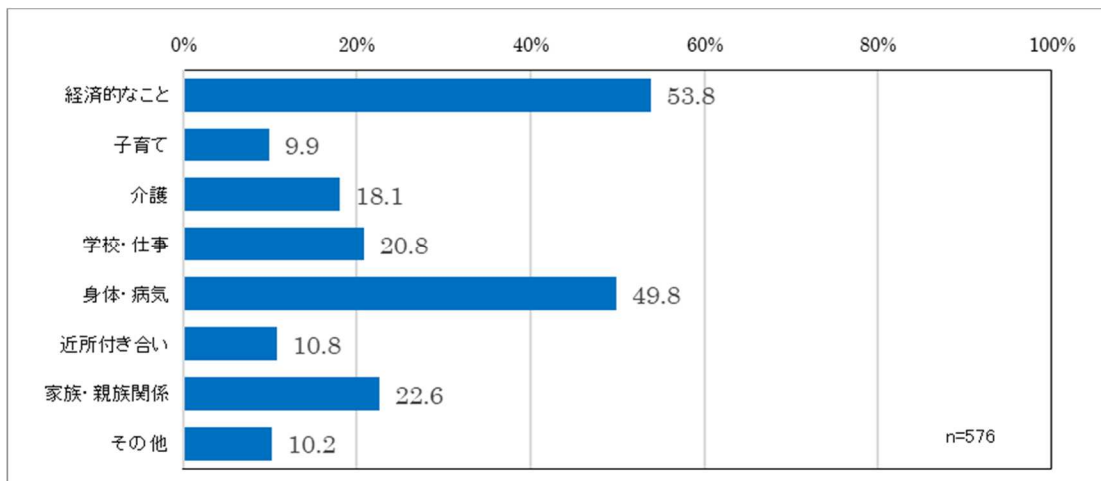
「困り事がある」が39.5%、「困り事はない」が57.7%となっています。



### F9で「困り事がある」と回答した方

#### F9-1 困り事の内容（複数回答）

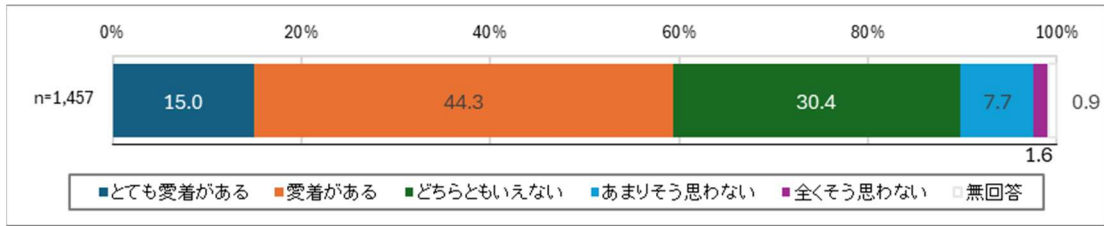
「経済的なこと」が53.8%で最も多く、次いで「身体・病気」49.8%、「家族・親族関係」22.6%の順となっています。



## 2 「地域」との関わりについて

問1 あなたは、現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか。

「愛着がある」が44.3%で最も多く、次いで「どちらともいえない」30.4%、「とても愛着がある」15.0%の順となっています。

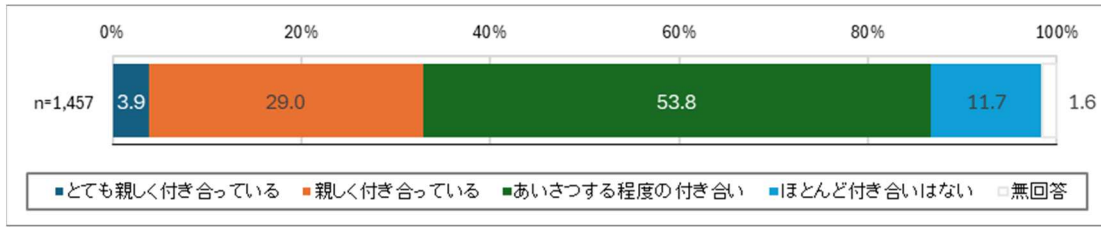


地域への愛着度を居住年数別でみると、「とても愛着がある」、「愛着がある」で居住年数が長くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	愛着度					無回答
			とても愛着がある	愛着がある	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	
居住年数	1年以上5年未満	242	22	74	100	35	11	0
		100.0	9.1	30.6	41.3	14.5	4.5	0.0
	5年以上10年未満	136	10	47	63	14	1	1
		100.0	7.4	34.6	46.3	10.3	0.7	0.7
	10年以上20年未満	252	36	108	86	20	2	0
		100.0	14.3	42.9	34.1	7.9	0.8	0.0
	20年以上30年未満	234	39	115	65	13	1	1
	100.0	16.7	49.1	27.8	5.6	0.4	0.4	
30年以上	581	112	298	126	29	9	7	
	100.0	19.3	51.3	21.7	5.0	1.5	1.2	
無回答	12	0	4	3	1	0	4	
	100.0	0.0	33.3	25.0	8.3	0.0	33.3	

問2 あなたはご近所の人とどの程度おつきあいがありますか。

「あいさつをする程度の付き合い」が53.8%で最も多く、次いで「親しく付き合っている」29.0%、「ほとんど付き合いはない」11.7%の順となっています。



近所付き合いの状況を年齢で見ると、「親しく付き合っている」は、「60歳以上」の高齢者層が、「ほとんど付き合いはない」は「40歳代」以下の比較的若年齢層が多くなっています。

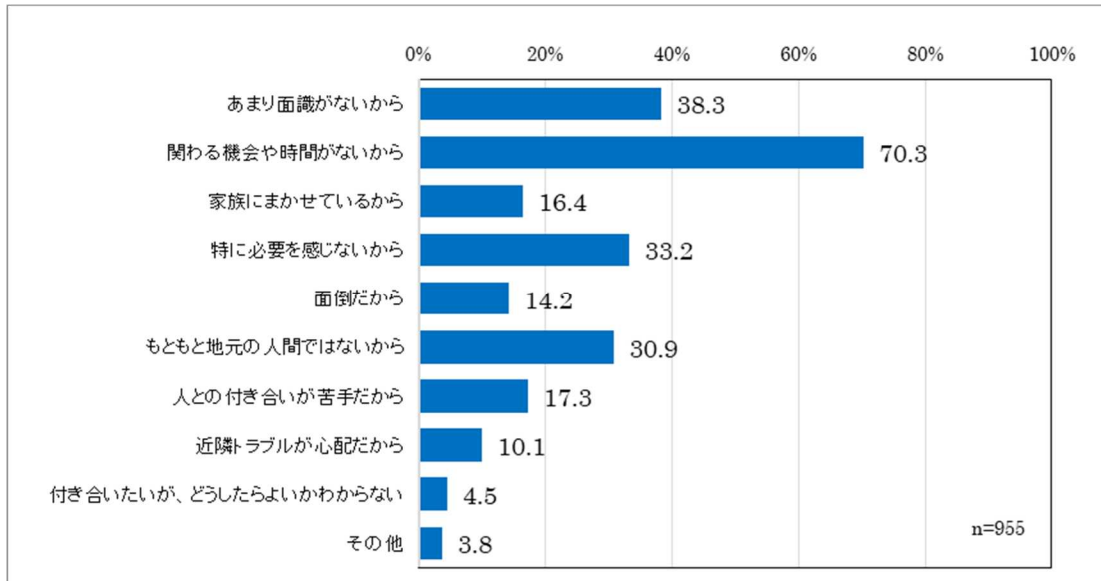
居住年数別では、「親しく付き合っている」は、居住年数が長くなるほど多くなり、「ほとんど付き合いはない」は居住年数が短くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	とても親しく付き合っている	親しく付き合っている	あいさつをする程度の付き合い	ほとんど付き合いはない	無回答
年齢	10歳代	63	4	14	35	9	1
		100.0	6.3	22.2	55.6	14.3	1.6
	20歳代	103	0	17	58	28	0
		100.0	0.0	16.5	56.3	27.2	0.0
	30歳代	130	2	27	71	30	0
		100.0	1.5	20.8	54.6	23.1	0.0
	40歳代	183	3	41	110	29	0
		100.0	1.6	22.4	60.1	15.8	0.0
	50歳代	222	8	47	141	25	1
	100.0	3.6	21.2	63.5	11.3	0.5	
60歳代	305	11	92	170	29	3	
	100.0	3.6	30.2	55.7	9.5	1.0	
70歳以上	444	28	182	199	20	15	
	100.0	6.3	41.0	44.8	4.5	3.4	
不明	7	1	2	0	1	3	
	100.0	14.3	28.6	0.0	14.3	42.9	
居住年数	1年以上5年未満	242	3	28	140	70	1
		100.0	1.2	11.6	57.9	28.9	0.4
	5年以上10年未満	136	4	19	88	24	1
		100.0	2.9	14.0	64.7	17.6	0.7
	10年以上20年未満	252	8	54	160	30	0
		100.0	3.2	21.4	63.5	11.9	0.0
	20年以上30年未満	234	8	65	138	20	3
	100.0	3.4	27.8	59.0	8.5	1.3	
30年以上	581	34	254	253	26	14	
	100.0	5.9	43.7	43.5	4.5	2.4	
無回答	12	0	2	5	1	4	
	100.0	0.0	16.7	41.7	8.3	33.3	

問 2-1 理由はなぜですか。(複数回答)

問 2 で「あいさつをする程度の付き合い」「ほとんど付き合いはない」と回答した方

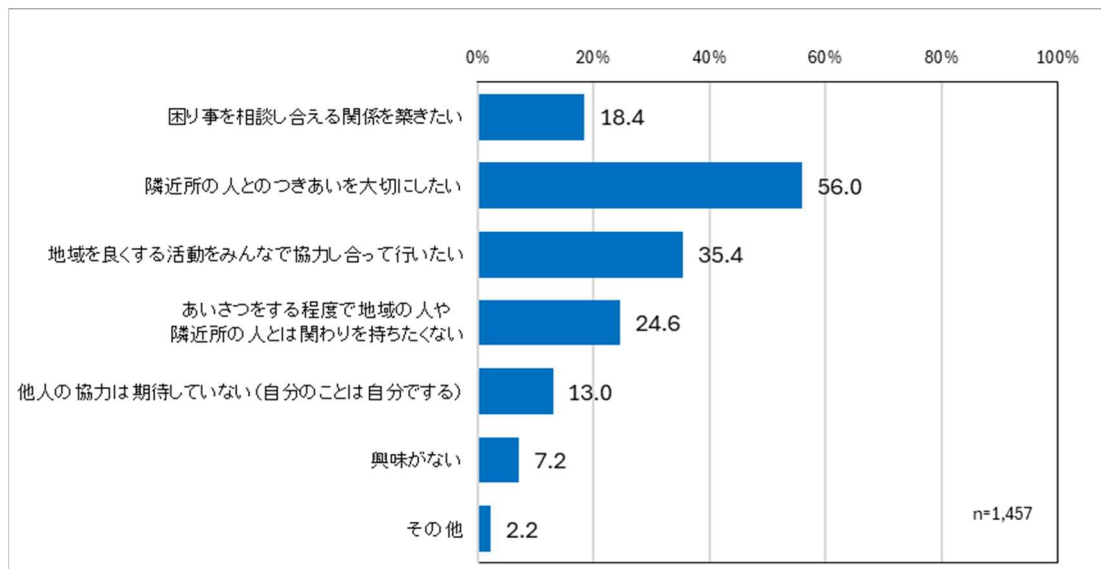
「関わる機会や時間がないから」が70.3%で最も多く、次いで「あまり面識がないから」38.3%、「特に必要を感じないから」33.2%の順となっています。



問 3 地域での人と人のかかわりについて、あなたの考えに近いものをお選びください。

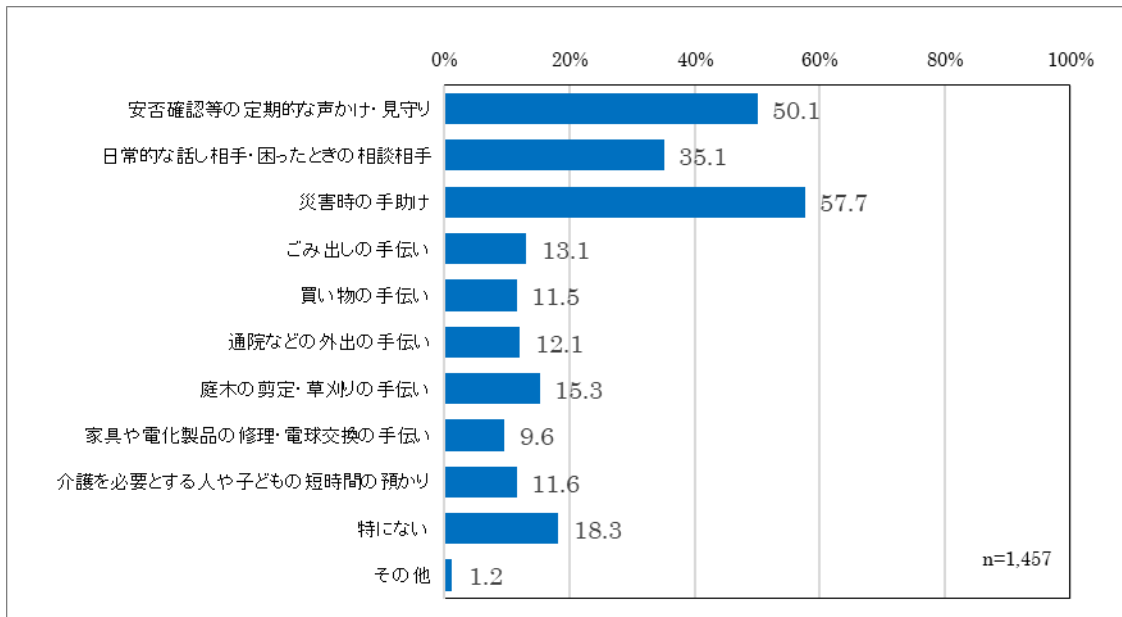
(複数回答)

「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」が56.0%で最も多く、次いで「地域を良くする活動をみんなで協力し合っていきたい」35.4%、「あいさつをする程度で地域の人や隣近所の人とはかかわりを持ちたくない」24.6%の順となっています。



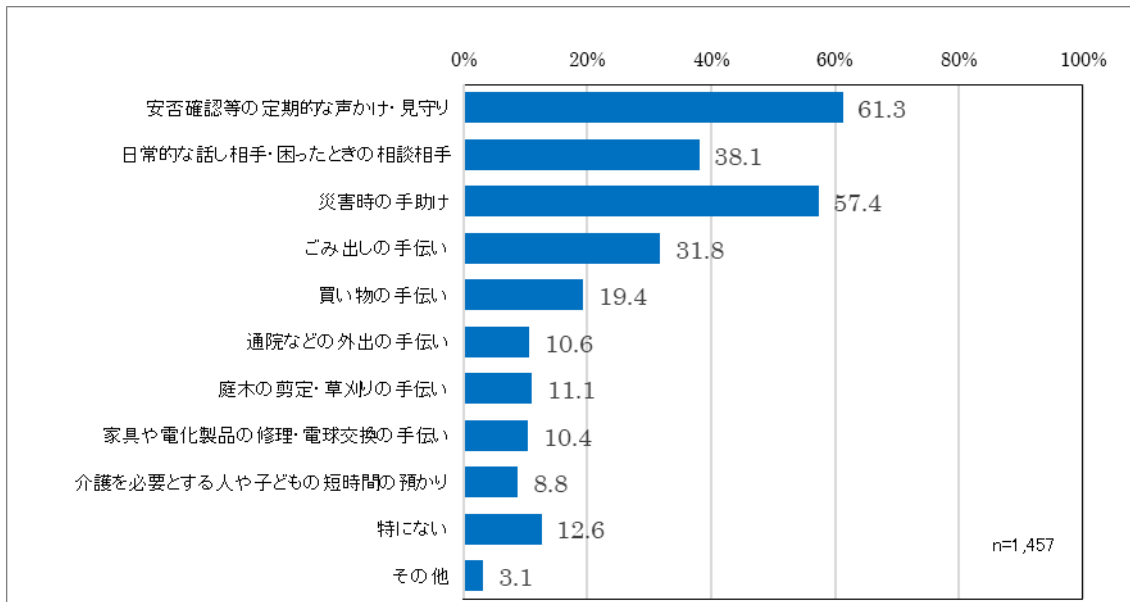
問4 あなたやご家族が、高齢や病気・障がい、もしくは子育て等で日常生活上の手助けが必要になったとき、地域の人にどのような支援をしてほしいと思いますか。（複数回答）

「災害時の手助け」が57.7%で最も多く、次いで「安否確認等の定期的な声かけ・見守り」50.1%、「日常的な話し相手・困ったときの相談相手」35.1%の順となっています。



問5 あなたの身近なところで、高齢や病気・障がい、もしくは子育て等で困っている家庭があった場合、どのような支援ができると思いますか。（複数回答）

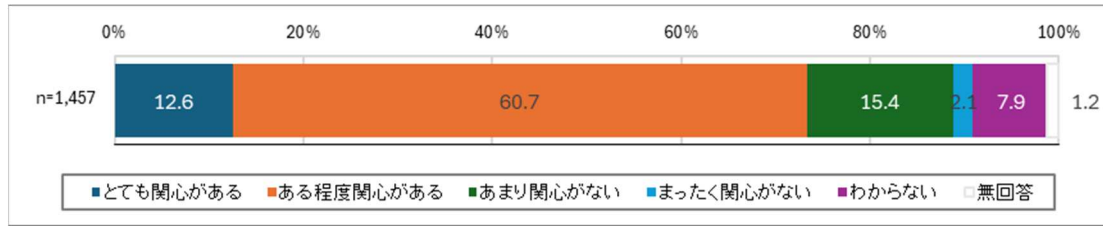
「安否確認等の定期的な声かけ・見守り」が61.3%で最も多く、次いで「災害時の手助け」57.4%、「日常的な話し相手・困ったときの相談相手」38.1%の順となっています。



### 3 あなたの「福祉」に対する考えについて

問6 あなたは福祉について関心がありますか。

「ある程度関心がある」が60.7%で最も多く、次いで「あまり関心がない」15.4%、「とても関心がある」12.6%の順となっています。



福祉への関心を年齢でみると、「とても関心がある」は「70歳以上」の高齢者層が、「あまり関心がない」は「40歳代」以下の比較的若年齢層が多くなっています。

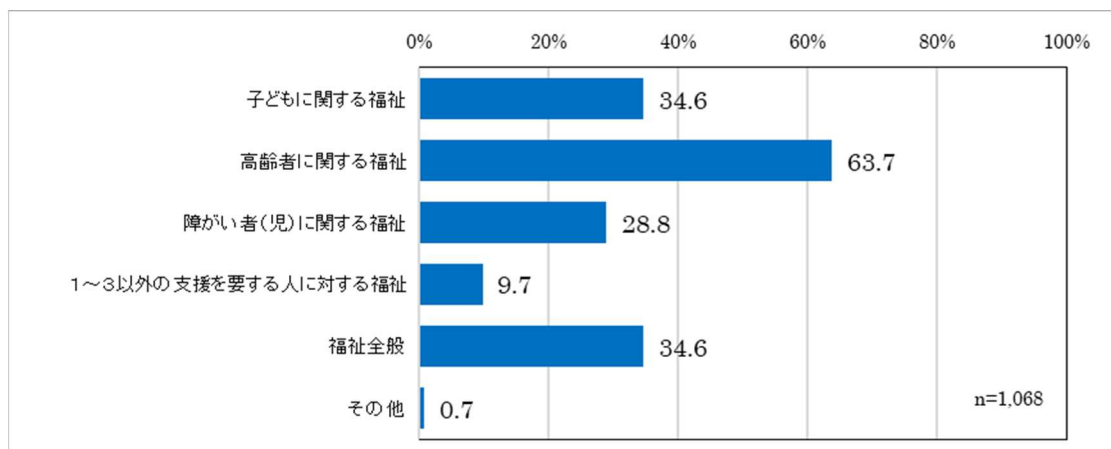
居住年数別では、「とても関心がある」は「20年以上」の居住年数に多く、「あまり関心がない」は「20年未満」の居住年数に多くなっています。

属性	区分	全体	とても関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	わからない	無回答
年齢	10歳代	63	6	29	18	4	5	1
		100.0	9.5	46.0	28.6	6.3	7.9	1.6
	20歳代	103	8	57	23	5	9	1
		100.0	7.8	55.3	22.3	4.9	8.7	1.0
	30歳代	130	18	71	27	6	8	0
		100.0	13.8	54.6	20.8	4.6	6.2	0.0
	40歳代	183	21	97	39	7	19	0
		100.0	11.5	53.0	21.3	3.8	10.4	0.0
50歳代	222	30	120	43	2	26	1	
	100.0	13.5	54.1	19.4	0.9	11.7	0.5	
60歳代	305	27	198	48	7	22	3	
	100.0	8.9	64.9	15.7	2.3	7.2	1.0	
70歳以上	444	72	310	27	0	26	9	
	100.0	16.2	69.8	6.1	0.0	5.9	2.0	
無回答	7	1	3	0	0	0	3	
	100.0	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	42.9	
居住年数	1年以上5年未満	242	27	136	45	9	24	1
		100.0	11.2	56.2	18.6	3.7	9.9	0.4
	5年以上10年未満	136	14	76	30	6	9	1
		100.0	10.3	55.9	22.1	4.4	6.6	0.7
	10年以上20年未満	252	24	150	54	6	18	0
		100.0	9.5	59.5	21.4	2.4	7.1	0.0
	20年以上30年未満	234	34	148	31	3	17	1
	100.0	14.5	63.2	13.2	1.3	7.3	0.4	
30年以上	581	81	372	64	7	46	11	
	100.0	13.9	64.0	11.0	1.2	7.9	1.9	
無回答	12	3	3	1	0	1	4	
	100.0	25.0	25.0	8.3	0.0	8.3	33.3	

問6で「とても関心がある」「ある程度関心がある」と回答した方

問6-1 福祉のどのような分野に関心がありますか。(複数回答)

「高齢者に関する福祉」が63.7%で最も多く、次いで「子どもに関する福祉」および「福祉全般」が34.6%が続いています。

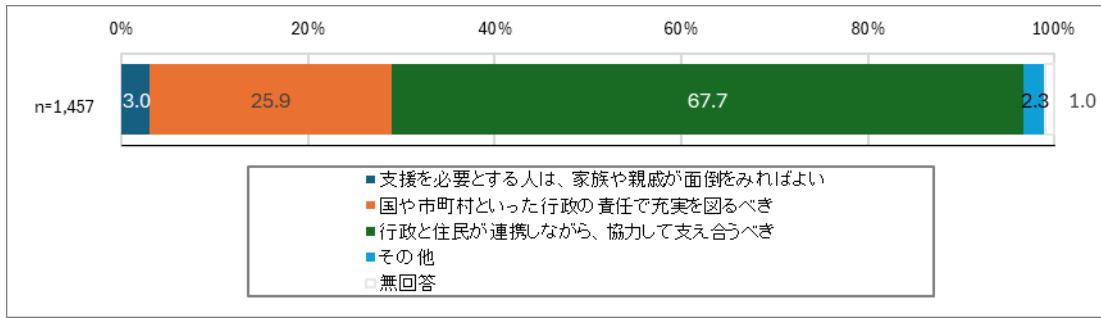


関心のある福祉分野を年齢でみると、「子どもに関する福祉」は「20〜30歳代」の子育て世代に加えて当事者である「10歳代」に多く、「高齢者に関する福祉」は年齢が高くなるほど多くなっています。

属性	区分	関心分野							
		全体	子どもに関する福祉	高齢者に関する福祉	障がい者(児)に関する福祉	1〜3以外の支援を要する人に対する福祉	福祉全般	その他	無回答
年齢	10歳代	35	21	7	7	3	12	0	0
		100.0	60.0	20.0	20.0	8.6	34.3	0.0	0.0
	20歳代	65	39	19	19	8	22	0	3
		100.0	60.0	29.2	29.2	12.3	33.8	0.0	4.6
	30歳代	89	59	44	35	12	24	1	0
		100.0	66.3	49.4	39.3	13.5	27.0	1.1	0.0
	40歳代	118	59	68	46	13	34	1	2
		100.0	50.0	57.6	39.0	11.0	28.8	0.8	1.7
50歳代	150	60	100	48	19	55	2	3	
	100.0	40.0	66.7	32.0	12.7	36.7	1.3	2.0	
60歳代	225	70	155	68	18	90	0	8	
	100.0	31.1	68.9	30.2	8.0	40.0	0.0	3.6	
70歳以上	382	61	284	85	31	133	4	30	
	100.0	16.0	74.3	22.3	8.1	34.8	1.0	7.9	
無回答	4	1	3	0	0	0	0	0	
	100.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

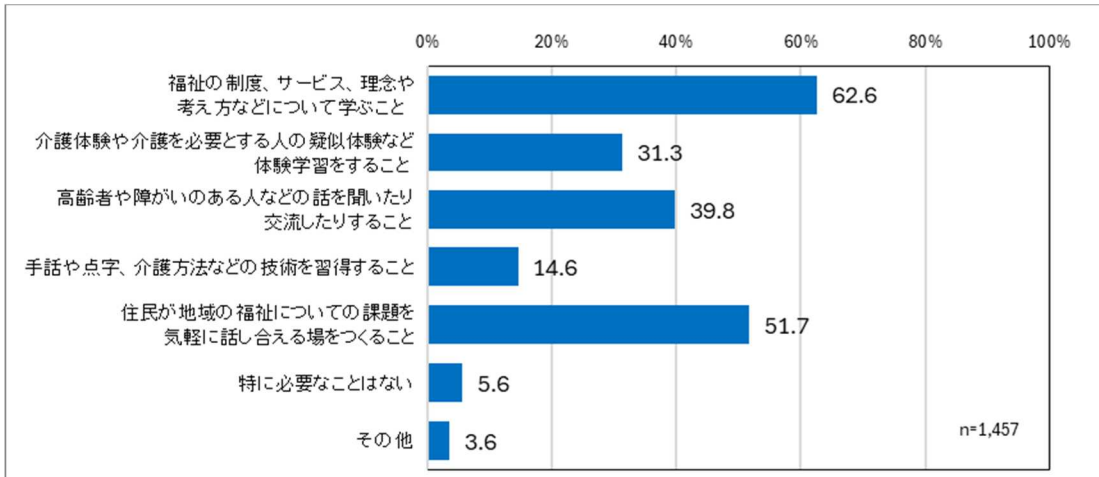
問7 「福祉」のあり方は、どのようであるべきだと思いますか。

「行政と住民が連携しながら、協力して支え合うべき」が67.7%で最も多く、次いで「国や市町村といった行政の責任で充実を図るべき」25.9%となっています。



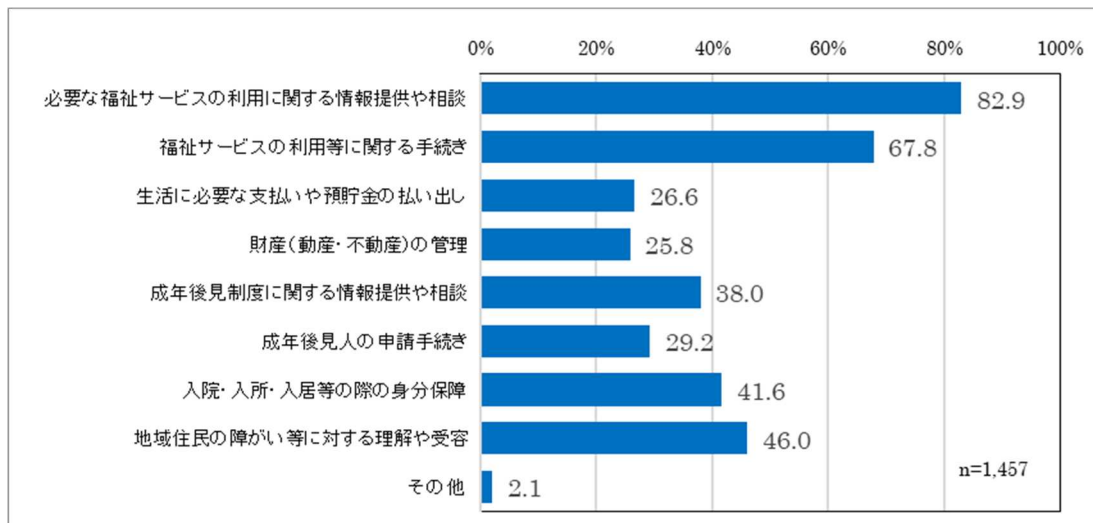
問8 あなたは、住民が福祉について理解を深めるためには、どのような機会が必要だと思いますか。(複数回答)

「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が62.6%で最も多く、次いで「住民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」51.7%、「高齢者や障がいのある人などの話を聞いたり、交流したりすること」39.8%の順となっています。



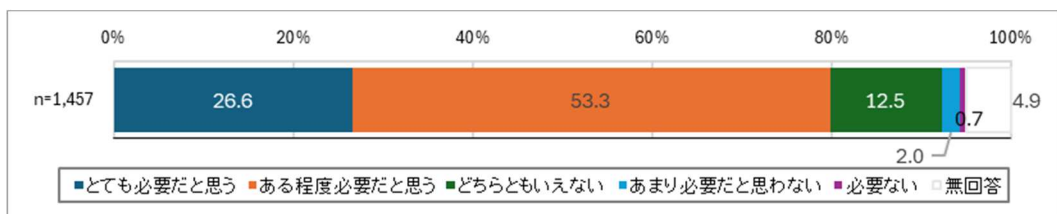
問9 認知症や知的障がい、精神障がいのある方など、判断能力が不十分な方が、地域で安心して暮らしていくために、どのような支援が必要だと思いますか。(複数回答)

「必要な福祉サービスの利用に関する情報提供や相談」が82.9%で最も多く、次いで「福祉サービスの利用等に関する手続き」67.8%、「地域住民の障がい等に対する理解や受容」46.0%の順となっています。



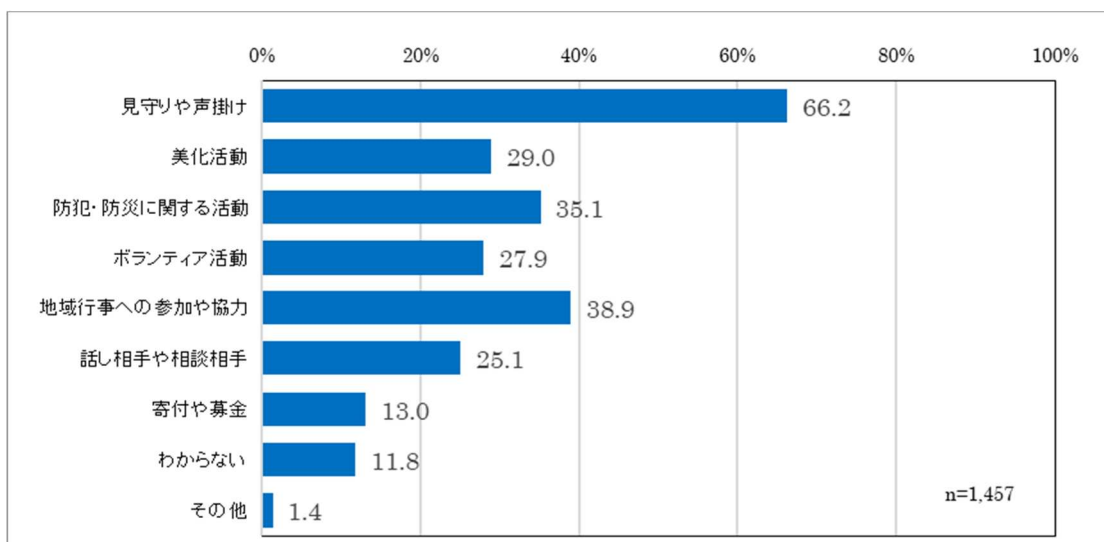
問10 あなたは地域福祉に関する課題に対して、住民同士の助け合いや支えあいの必要性についてどう思いますか。

「ある程度必要だと思う」が53.3%で最も多く、次いで「とても必要だと思う」26.6%、「どちらともいえない」12.5%の順となっています。



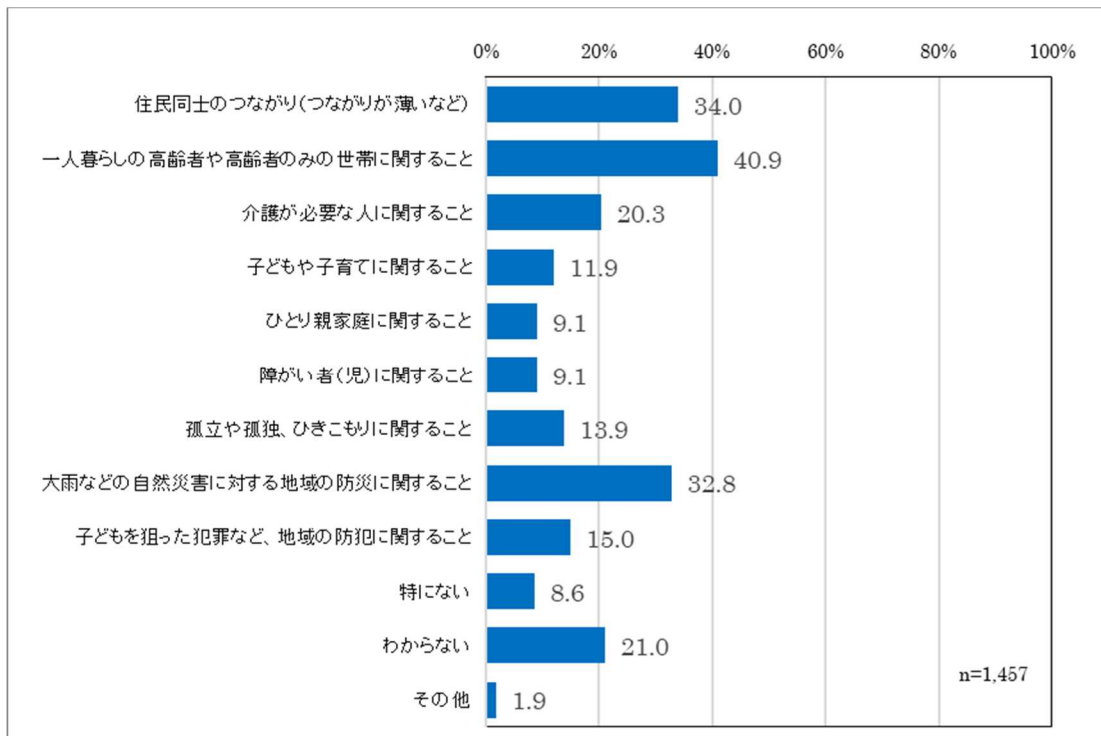
問11 住民が安心して暮らせるように、あなたができると思うことは何ですか。(複数回答)

「見守りや声かけ」が66.2%で最も多く、次いで「地域行事への参加や協力」38.9%、「防犯・防災に関する活動」35.1%の順となっています。



問 12 あなたの住んでいる地域には、どのような課題・問題があると思いますか。(複数回答)

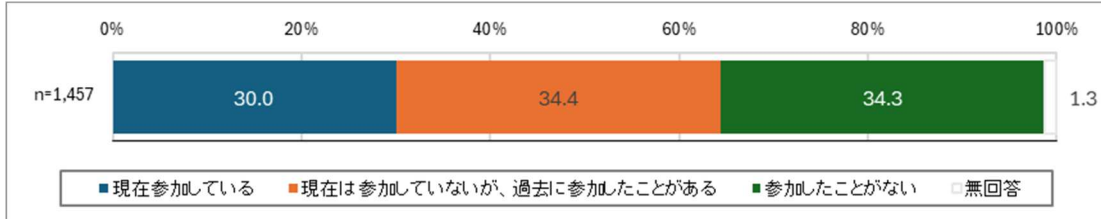
「一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯に関すること」が 40.9%で最も多く、次いで「住民同士のつながり(つながりが薄いなど)」34.0%、「大雨などの自然災害に対する地域の防災に関すること」32.8%の順となっています。



## 4 地域活動や福祉に関するボランティアについて

問 13 あなたは、自治会や子ども会、老人クラブなどの地域活動やボランティア活動に参加していますか。

「現在参加している」が30.0%と最も少なく、「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」34.4%と「参加したことがない」34.3%がほぼ同じ割合となっています。



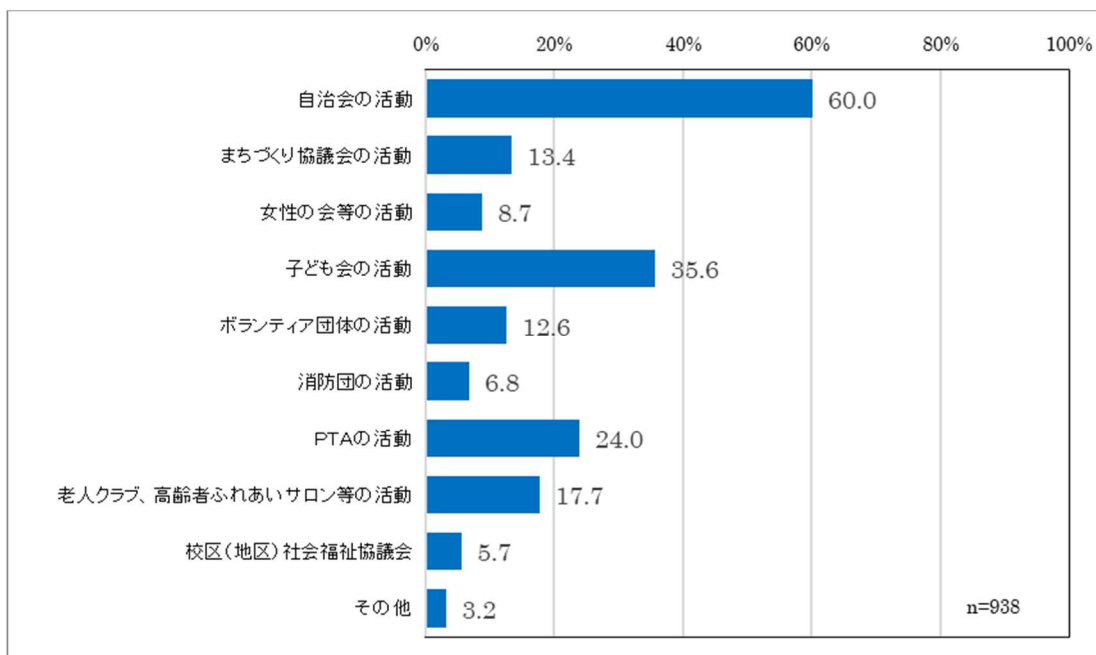
地域活動やボランティア活動の参加状況を年齢別でみると、「参加したことがない」は「20～30歳代」が、「現在参加している」は「60歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	参加状況			
			現在参加している	現在は参加していないが、過去に参加したことがある	参加したことがない	無回答
年齢	10歳代	63	4	34	24	1
		100.0	6.3	54.0	38.1	1.6
	20歳代	103	10	41	50	2
		100.0	9.7	39.8	48.5	1.9
	30歳代	130	33	35	62	0
		100.0	25.4	26.9	47.7	0.0
	40歳代	183	61	52	69	1
		100.0	33.3	28.4	37.7	0.5
	50歳代	222	55	87	76	4
	100.0	24.8	39.2	34.2	1.8	
60歳代	305	110	103	91	1	
	100.0	36.1	33.8	29.8	0.3	
70歳以上	444	161	149	127	7	
	100.0	36.3	33.6	28.6	1.6	
無回答	7	3	0	1	3	
	100.0	42.9	0.0	14.3	42.9	

問 13 で「現在参加している」「現在参加していないが、過去に参加したことがある」と回答した方

問 13-1 どんな活動をしていますか（していましたか）。（複数回答）

「自治会の活動」が60.0%で最も多く、次いで「子ども会の活動」35.6%、「PTAの活動」24.0%の順となっています。



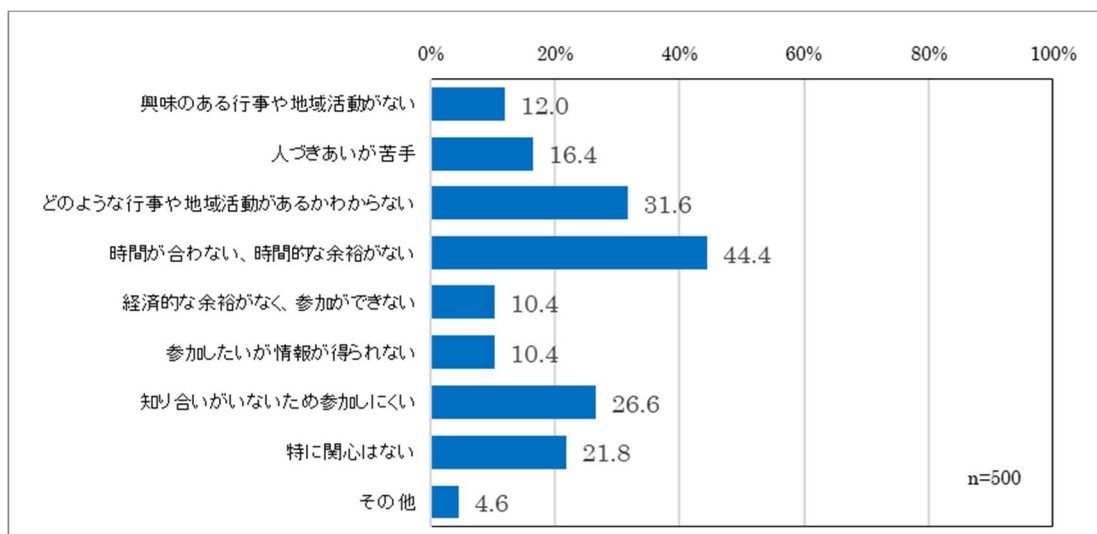
活動している地域活動やボランティアの状況を性別で見ると、「自治会の活動」、「まちづくり協議会の活動」、「消防団の活動」は「男性」が、「女性の会等の活動」、「子ども会の活動」、「PTAの活動」は「女性」が多くなっています。

属性	区分	全体	自治会の活動	まちづくり協議会の活動	女性の会等の活動	子ども会の活動	ボランティア団体の活動	消防団の活動	PTAの活動	老人クラブ、高齢者ふれあいサロン等の活動	校区(地区)社会福祉協議会	その他	無回答
性別	男性	409 100.0	292 71.4	75 18.3	7 1.7	103 25.2	49 12.0	56 13.7	68 16.6	80 19.6	33 8.1	16 3.9	19 4.6
	女性	525 100.0	269 51.2	51 9.7	74 14.1	229 43.6	68 13.0	8 1.5	156 29.7	84 16.0	19 3.6	14 2.7	18 3.4
	その他	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

### 問 13 で「参加したことがない」と回答した方

#### 問 13-2 地域活動やボランティアに参加したことがない理由は何ですか。(複数回答)

「時間が合わない、時間的な余裕がない」が44.4%で最も多く、次いで「どのような行事や地域活動があるかわからない」31.6%、「知り合いがいないため参加しにくい」26.6%の順となっています。



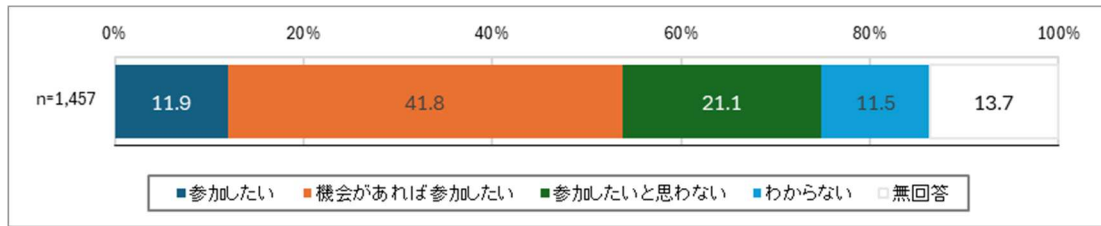
地域活動やボランティア活動をしない理由を年齢別でみると、「時間が合わない、時間的な余裕がない」は「20～50歳代」の働き世代が、「どのような行事や地域活動があるかわからない」は「20～30歳代」が、「知り合いがいないため参加しにくい」は「20～30歳代」と「60歳代」が多くなっています。

居住年数別では、「どのような行事や地域活動があるかわからない」は「20年未満」が、「知り合いがいないため参加しにくい」は「10年未満」が多くなっています。

属性	区分	理由											無回答
		全体	興味のある行事や地域活動がない	人づきあいが苦手	どのような行事や地域活動があるかわからない	時間が合わない、時間的な余裕がない	経済的な余裕がなく参加ができない	参加したいが情報が得られない	知り合いがいないため参加しにくい	特に興味はない	その他	無回答	
年齢	10歳代	24	2	2	7	10	0	4	2	6	1	0	
		100.0	8.3	8.3	29.2	41.7	0.0	16.7	8.3	25.0	4.2	0.0	
	20歳代	50	8	10	22	30	9	9	18	11	0	0	
		100.0	16.0	20.0	44.0	60.0	18.0	18.0	36.0	22.0	0.0	0.0	
	30歳代	62	12	13	25	39	7	3	22	14	2	0	
		100.0	19.4	21.0	40.3	62.9	11.3	4.8	35.5	22.6	3.2	0.0	
	40歳代	69	5	14	18	37	7	3	17	17	5	0	
		100.0	7.2	20.3	26.1	53.6	10.1	4.3	24.6	24.6	7.2	0.0	
	50歳代	76	6	12	21	42	8	5	13	18	6	2	
	100.0	7.9	15.8	27.6	55.3	10.5	6.6	17.1	23.7	7.9	2.6		
60歳代	91	16	11	29	33	11	13	31	19	1	5		
	100.0	17.6	12.1	31.9	36.3	12.1	14.3	34.1	20.9	1.1	5.5		
70歳以上	127	11	20	36	31	10	15	30	24	8	6		
	100.0	8.7	15.7	28.3	24.4	7.9	11.8	23.6	18.9	6.3	4.7		
無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
居住年数	1年以上5年未満	138	19	19	60	59	17	18	45	33	6	1	
		100.0	13.8	13.8	43.5	42.8	12.3	13.0	32.6	23.9	4.3	0.7	
	5年以上10年未満	60	7	13	22	24	9	10	22	14	0	1	
		100.0	11.7	21.7	36.7	40.0	15.0	16.7	36.7	23.3	0.0	1.7	
	10年以上20年未満	92	14	11	29	48	8	10	23	19	4	3	
		100.0	15.2	12.0	31.5	52.2	8.7	10.9	25.0	20.7	4.3	3.3	
	20年以上30年未満	74	7	13	21	32	6	5	20	16	2	4	
	100.0	9.5	17.6	28.4	43.2	8.1	6.8	27.0	21.6	2.7	5.4		
30年以上	129	13	25	24	57	12	9	21	27	10	3		
	100.0	10.1	19.4	18.6	44.2	9.3	7.0	16.3	20.9	7.8	2.3		
無回答	7	0	1	2	2	0	0	2	0	1	2		
	100.0	0.0	14.3	28.6	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3	28.6		

問 14 あなたは自治会や子ども会、老人クラブなどの地域活動やボランティア活動、行事に参加したいと思いますか。

「機会があれば参加したい」が 41.8%で最も多く、次いで「参加したいと思わない」21.1%、「参加したい」11.9%の順となっています。

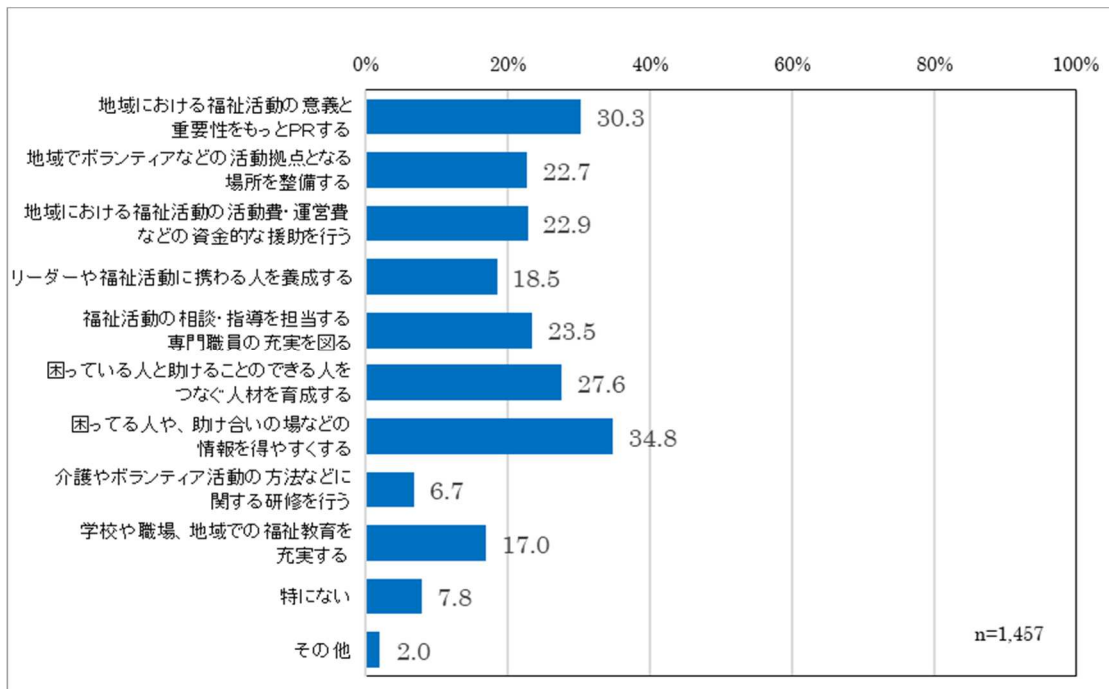


地域活動やボランティア活動の参加意向を年齢別でみると、「参加したい」は「60歳以上」が最も多くなっています。

属性	区分	全体	参加したい	機会があれば参加したい	参加したいと思わない	わからない	無回答
年齢	10歳代	63	5	21	9	3	25
		100.0	7.9	33.3	14.3	4.8	39.7
	20歳代	103	3	30	26	12	32
		100.0	2.9	29.1	25.2	11.7	31.1
	30歳代	130	8	56	25	10	31
		100.0	6.2	43.1	19.2	7.7	23.8
	40歳代	183	8	58	47	28	42
		100.0	4.4	31.7	25.7	15.3	23.0
	50歳代	222	11	93	54	31	33
	100.0	5.0	41.9	24.3	14.0	14.9	
60歳代	305	44	148	61	37	15	
	100.0	14.4	48.5	20.0	12.1	4.9	
70歳以上	444	95	200	85	46	18	
	100.0	21.4	45.0	19.1	10.4	4.1	
無回答	7	0	3	1	0	3	
	100.0	0.0	42.9	14.3	0.0	42.9	

問 15 今後、地域での支え合い、助け合い活動を促進するために必要なことは何だと思いま  
すか。(〇は3つまで)

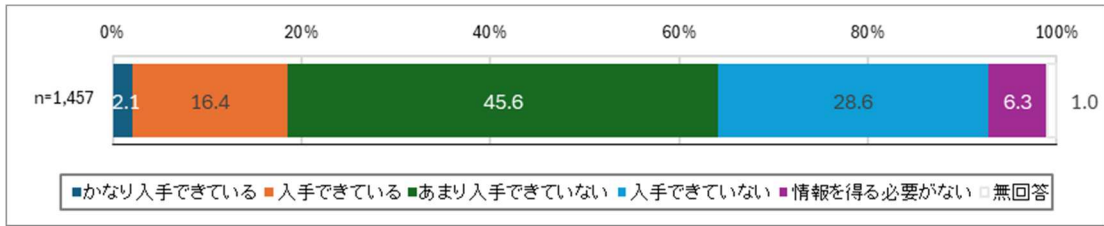
「困っている人や、助け合いの場などの情報を得やすくする」が34.8%で最も多く、次いで「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」30.3%、「困っている人と助けることのできる人をつなぐ人材を育成する」27.6%の順となっています。



## 5 「福祉サービス」に関することについて

問 16 あなたは、「福祉サービス」に関する情報をどの程度入手できていますか。

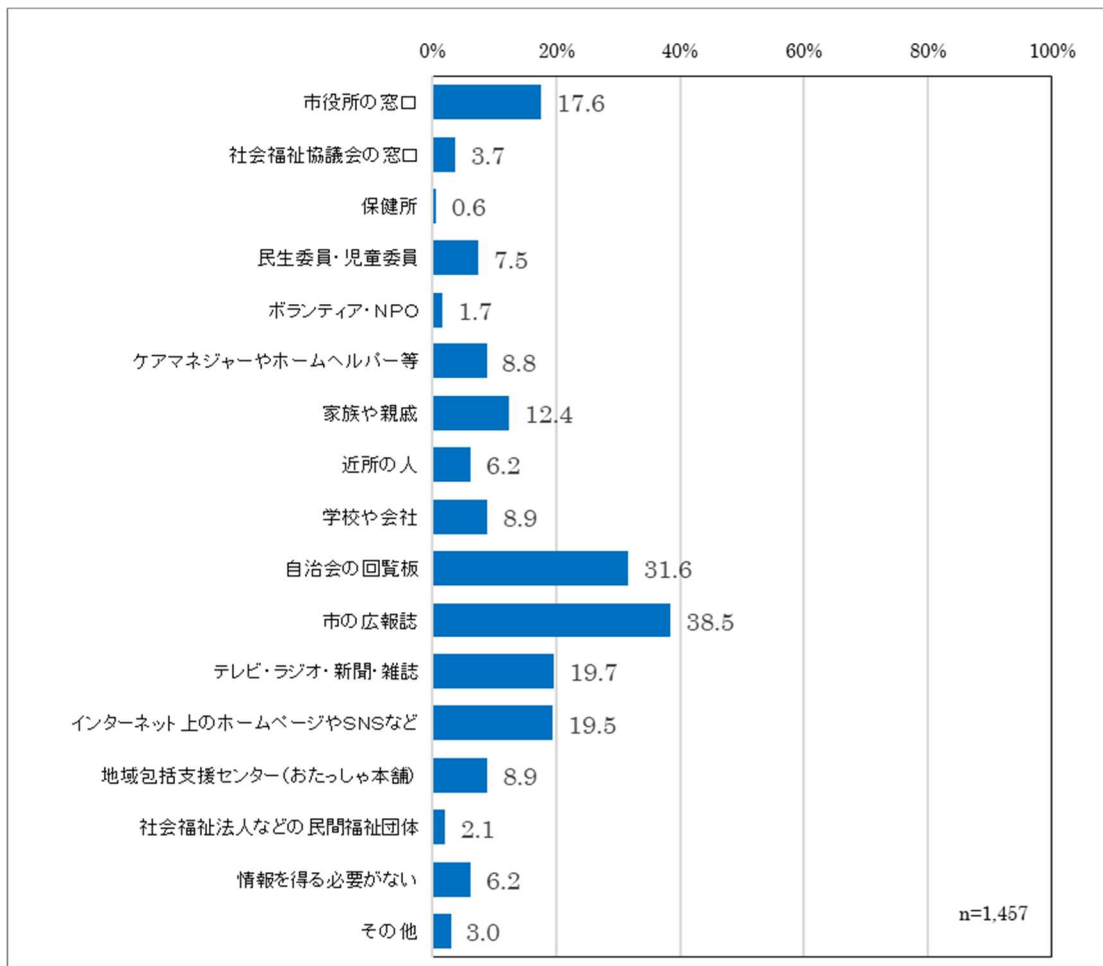
「あまり入手できていない」が45.6%で最も多く、次いで「入手できていない」28.6%、「入手できている」16.4%の順となっています。



問 17 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。

(〇は3つまで)

「市の広報誌」が38.5%で最も多く、次いで「自治会の回覧板」31.6%、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」19.7%、「インターネット上のホームページやSNSなど」19.5%の順となっています。



「福祉サービス」に関する情報の入手先を性別でみると、「男性」、「女性」とも、「自治会の回覧板」と「市の広報誌」が最も多くなっていると共に、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」と「インターネット上のホームページやSNSなど」のメディア系についてはほぼ同じような割合となっています。

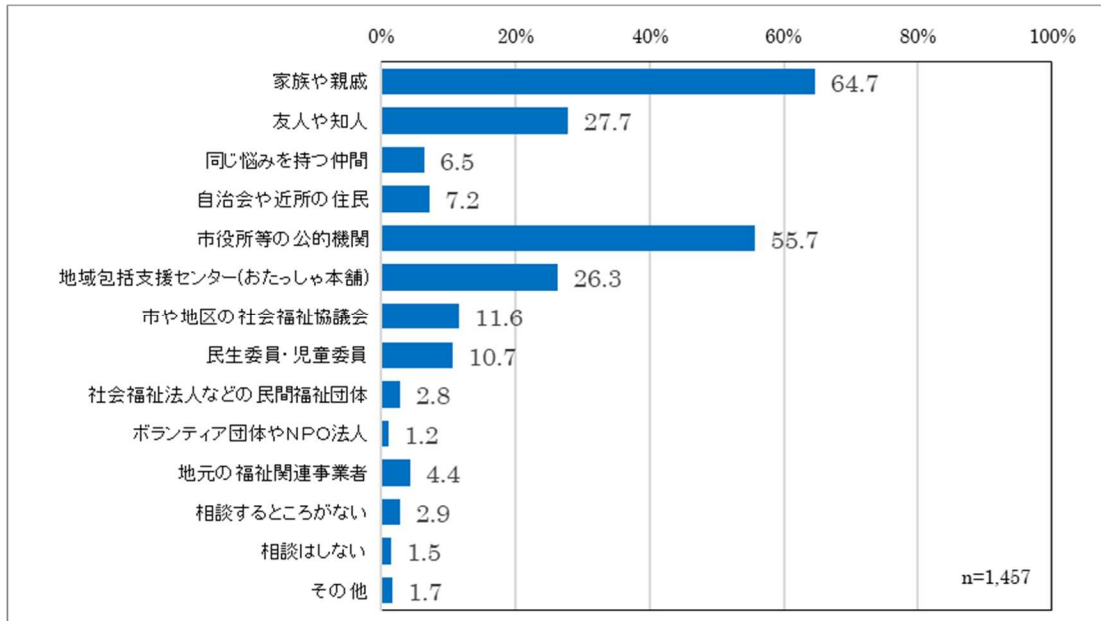
年齢別では、「市役所の窓口」は「30歳代」が、「自治会の回覧板」は「60歳以上」が、「市の広報誌」は「50歳以上」が多く、「インターネット上のホームページやSNSなど」は年齢が低くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	市役所の窓口	社会福祉協議会の窓口	保健所	民生委員・児童委員	ボランティア・NPO	ケアマネジャーやホームヘルパー等	家族や親戚	近所の人	学校や会社
性別	男性	629	117	33	6	61	10	49	83	48	33
		100.0	18.6	5.2	1.0	9.7	1.6	7.8	13.2	7.6	5.2
	女性	819	139	21	3	48	15	77	97	40	96
		100.0	17.0	2.6	0.4	5.9	1.8	9.4	11.8	4.9	11.7
その他		4	0	0	0	0	0	1	1	1	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0
無回答		5	0	0	0	0	0	1	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
年齢	10歳代	63	6	1	1	0	1	0	12	2	20
		100.0	9.5	1.6	1.6	0.0	1.6	0.0	19.0	3.2	31.7
	20歳代	103	12	2	0	0	1	3	19	4	17
		100.0	11.7	1.9	0.0	0.0	1.0	2.9	18.4	3.9	16.5
	30歳代	130	38	6	1	0	1	9	20	2	19
		100.0	29.2	4.6	0.8	0.0	0.8	6.9	15.4	1.5	14.6
	40歳代	183	39	2	1	2	2	14	24	8	31
		100.0	21.3	1.1	0.5	1.1	1.1	7.7	13.1	4.4	16.9
	50歳代	222	41	1	0	4	5	22	25	7	26
		100.0	18.5	0.5	0.0	1.8	2.3	9.9	11.3	3.2	11.7
	60歳代	305	47	7	2	26	9	32	34	17	14
		100.0	15.4	2.3	0.7	8.5	3.0	10.5	11.1	5.6	4.6
70歳以上	444	72	35	4	77	6	47	47	49	3	
	100.0	16.2	7.9	0.9	17.3	1.4	10.6	10.6	11.0	0.7	
無回答		7	1	0	0	0	0	1	0	1	0
		100.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0

属性	区分	全体	自治会の回覧板	市の広報誌	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	インターネット上のホームページやSNSなど	地域包括支援センター（おたっしや本舗）	社会福祉法人などの民間福祉団体	情報を得る必要がない	その他	無回答
性別	男性	629	232	231	123	128	49	12	36	19	25
		100.0	36.9	36.7	19.6	20.3	7.8	1.9	5.7	3.0	4.0
	女性	819	225	328	162	156	79	18	54	25	32
		100.0	27.5	40.0	19.8	19.0	9.6	2.2	6.6	3.1	3.9
その他		4	4	2	2	0	0	0	0	0	0
		100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答		5	0	0	0	0	1	0	0	0	3
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0
年齢	10歳代	63	3	8	16	24	0	0	9	3	0
		100.0	4.8	12.7	25.4	38.1	0.0	0.0	14.3	4.8	0.0
	20歳代	103	12	23	14	38	4	2	17	4	4
		100.0	11.7	22.3	13.6	36.9	3.9	1.9	16.5	3.9	3.9
	30歳代	130	22	46	27	57	1	3	11	2	1
		100.0	16.9	35.4	20.8	43.8	0.8	2.3	8.5	1.5	0.8
	40歳代	183	44	65	27	53	8	3	15	10	4
		100.0	24.0	35.5	14.8	29.0	4.4	1.6	8.2	5.5	2.2
	50歳代	222	48	92	39	48	22	1	22	10	8
		100.0	21.6	41.4	17.6	21.6	9.9	0.5	9.9	4.5	3.6
	60歳代	305	126	143	71	47	30	7	10	8	17
		100.0	41.3	46.9	23.3	15.4	9.8	2.3	3.3	2.6	5.6
70歳以上	444	206	184	93	17	63	13	6	7	23	
	100.0	46.4	41.4	20.9	3.8	14.2	2.9	1.4	1.6	5.2	
無回答		7	0	0	0	0	1	1	0	0	3
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	42.9

問 18 あなた自身やご家族が、生活上の困りごとを抱えたときや「福祉サービス」の利用が必要となったとき、どこ（誰）に相談しますか。（〇は3つまで）

「家族や親族」が64.7%で最も多く、次いで「市役所等の公的機関」55.7%、「友人や知人」27.7%の順となっています。



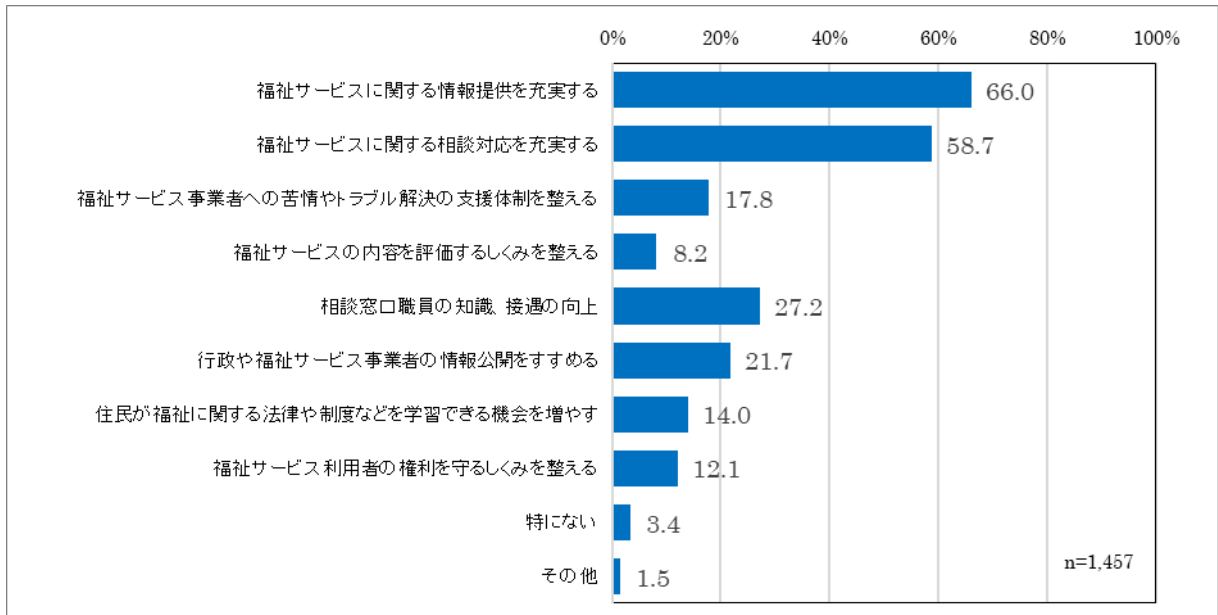
福祉サービスが必要になった時の相談先を性別でみると、「自治会や近所の住民」は「男性」が、「友人や知人」は「女性」が多くなっています。

年齢別では、「市役所等の公的機関」は「20～60歳代」が、「地域包括支援センター(おたっしゅ本舗)」は「60歳以上」が、「市や地区の社会福祉協議会」は「60歳代」が、「民生委員・児童委員」は「70歳以上」が多くなっています。

属性	区分	相談先															
		全体	家族や親戚	友人や知人	同じ悩みを持つ仲間	自治会や近所の住民	市役所等の公的機関	地域包括支援センター(おたっしゅ本舗)	市や地区の社会福祉協議会	民生委員・児童委員	社会福祉法人などの民間福祉団体	ボランティア団体やNPO法人	地元の福祉関連事業者	相談するところがない	相談はしない	その他	無回答
性別	男性	629	404	135	27	63	362	146	93	82	20	13	29	19	13	8	5
		100.0	64.2	21.5	4.3	10.0	57.6	23.2	14.8	13.0	3.2	2.1	4.6	3.0	2.1	1.3	0.8
	女性	819	535	266	66	41	447	233	75	73	21	4	35	23	9	17	3
		100.0	65.3	32.5	8.1	5.0	54.6	28.4	9.2	8.9	2.6	0.5	4.3	2.8	1.1	2.1	0.4
	その他	4	2	2	1	1	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	50.0	50.0	25.0	25.0	50.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無回答	5	2	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	
	100.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	
年齢	10歳代	63	50	24	5	1	24	3	6	2	2	2	2	2	1	1	0
		100.0	79.4	38.1	7.9	1.6	38.1	4.8	9.5	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	1.6	1.6	0.0
	20歳代	103	76	42	9	0	60	16	9	2	3	1	3	3	2	3	1
		100.0	73.8	40.8	8.7	0.0	58.3	15.5	8.7	1.9	2.9	1.0	2.9	2.9	1.9	2.9	1.0
	30歳代	130	96	49	18	3	77	14	10	1	2	2	5	5	6	3	0
		100.0	73.8	37.7	13.8	2.3	59.2	10.8	7.7	0.8	1.5	1.5	3.8	3.8	4.6	2.3	0.0
	40歳代	183	122	56	15	8	120	39	12	4	8	2	8	5	1	7	0
		100.0	66.7	30.6	8.2	4.4	65.6	21.3	6.6	2.2	4.4	1.1	4.4	2.7	0.5	3.8	0.0
	50歳代	222	124	58	11	12	143	60	28	14	6	4	12	6	5	5	2
		100.0	55.9	26.1	5.0	5.4	64.4	27.0	12.6	6.3	2.7	1.8	5.4	2.7	2.3	2.3	0.9
60歳代	305	181	78	12	33	183	99	52	31	8	3	17	8	5	3	2	
	100.0	59.3	25.6	3.9	10.8	60.0	32.5	17.0	10.2	2.6	1.0	5.6	2.6	1.6	1.0	0.7	
70歳以上	444	291	97	24	48	204	151	52	101	11	3	17	13	2	3	3	
	100.0	65.5	21.8	5.4	10.8	45.9	34.0	11.7	22.7	2.5	0.7	3.8	2.9	0.5	0.7	0.7	
無回答	7	3	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3	
	100.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	

問 19 福祉サービス利用者が、自分に最適な福祉サービスを選び安心して利用するために、行政はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。（〇は3つまで）

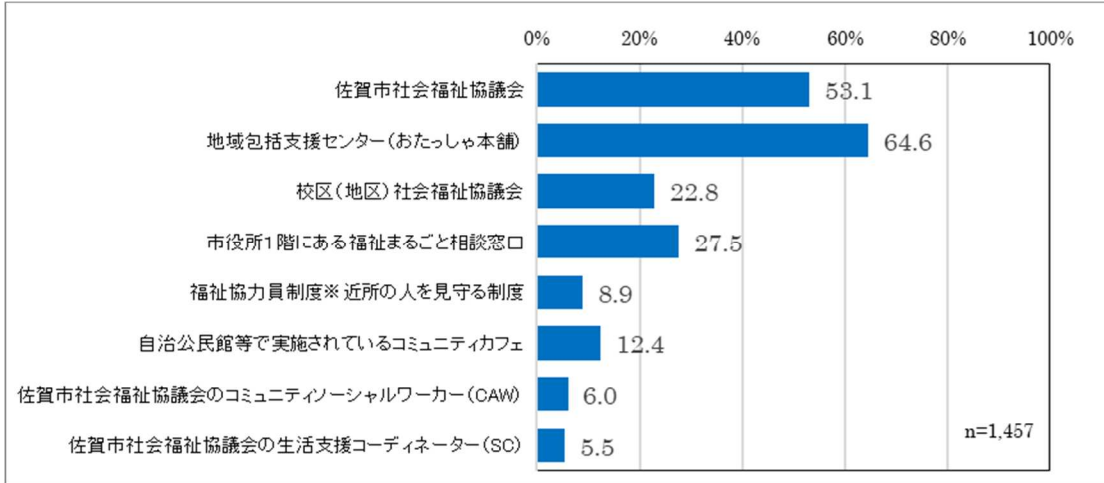
「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が 66.0%で最も多く、次いで「福祉サービスに関する相談対応を充実する」58.7%、「相談窓口職員の知識、接遇の向上」27.2%の順となっています。



## 6 地域福祉に関わる機関や団体、制度について

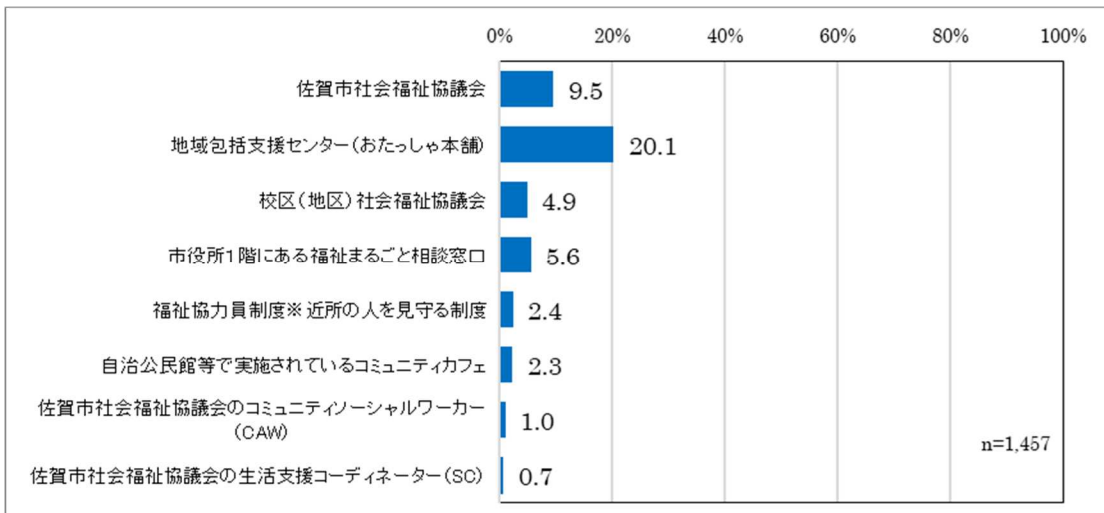
問 20 次の機関や団体、制度、取り組みなどご存知ですか。(知っているものすべてに○)

「地域包括支援センター(おたっしゅ本舗)」が64.6%で最も多く、次いで「佐賀市社会福祉協議会」53.1%、「市役所1階にある福祉まるごと相談窓口」27.5%の順となっています。



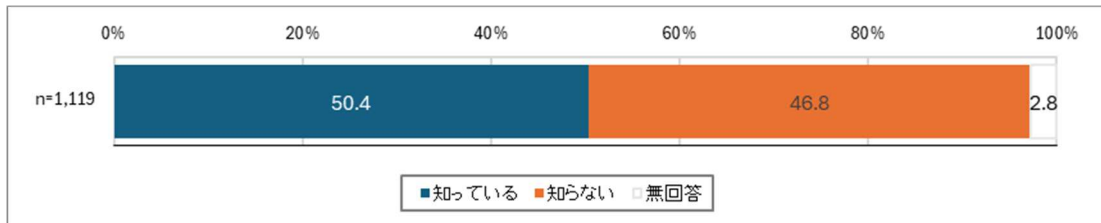
問 21 直接かかわった(相談した、参加したなど)ことがある機関や団体、制度などはどれですか。(かかわったことがあるものすべてに○)

「地域包括支援センター(おたっしゅ本舗)」が20.1%で最も多く、次いで「佐賀市社会福祉協議会」9.5%、「市役所1階にある福祉まるごと相談窓口」5.6%となっています。



問 22 あなたは民生委員・児童委員及びその活動内容についてご存知ですか。

「民生委員・児童委員は知っているが活動内容はわからない」が 49.5%で最も多く、次いで「民生委員・児童委員及び活動内容も知っている」27.3%、「知らない」21.6%の順となっています。

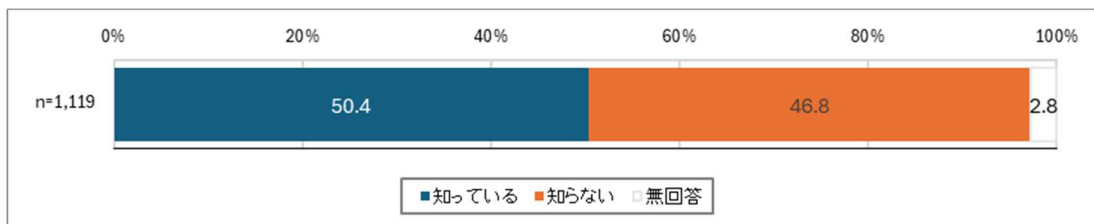


民生委員・児童委員及びその活動内容の認知度を年齢別でみると、「民生委員・児童委員及び活動内容も知っている」は年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、「知らない」は年齢が低くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	民生委員・児童委員及び活動内容も知っている	民生委員・児童委員は知っているが活動内容はわからない	知らない	無回答
年齢	10歳代	63	6	15	40	2
		100.0	9.5	23.8	63.5	3.2
	20歳代	103	7	45	49	2
		100.0	6.8	43.7	47.6	1.9
	30歳代	130	24	64	42	0
		100.0	18.5	49.2	32.3	0.0
	40歳代	183	32	114	37	0
		100.0	17.5	62.3	20.2	0.0
	50歳代	222	46	125	48	3
	100.0	20.7	56.3	21.6	1.4	
60歳代	305	75	165	61	4	
	100.0	24.6	54.1	20.0	1.3	
70歳以上	444	208	190	38	8	
	100.0	46.8	42.8	8.6	1.8	
無回答	7	0	3	0	4	
	100.0	0.0	42.9	0.0	57.1	

**問 22 で「民生委員・児童委員及び活動内容も知っている」「民生委員・児童委員は知っているが活動内容はわからない」と回答した方**

問 22-1 あなたはお住まいの地区の担当民生委員・児童委員をご存知ですか。  
「知っている」が50.4%、「知らない」が46.8%となっています。

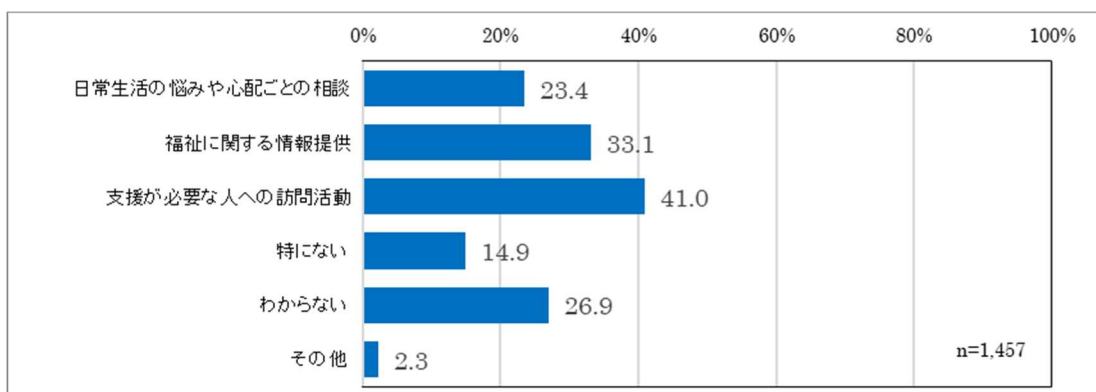


担当の民生委員・児童委員の認知度に関して年齢別でみると、「知っている」は年代が高くなるほど多くなる傾向にあり、「知らない」は年代が低くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	認知度		
			知っている	知らない	無回答
年齢	10歳代	21	2	18	1
		100.0	9.5	85.7	4.8
	20歳代	52	11	41	0
		100.0	21.2	78.8	0.0
	30歳代	88	13	74	1
		100.0	14.8	84.1	1.1
	40歳代	146	39	106	1
		100.0	26.7	72.6	0.7
	50歳代	171	58	113	0
		100.0	33.9	66.1	0.0
60歳代	240	133	104	3	
	100.0	55.4	43.3	1.3	
70歳以上	398	305	68	25	
	100.0	76.6	17.1	6.3	
無回答	3	3	0	0	
	100.0	100.0	0.0	0.0	

問 23 民生委員・児童委員の活動として、今後、充実してほしいことがありますか。  
(複数回答)

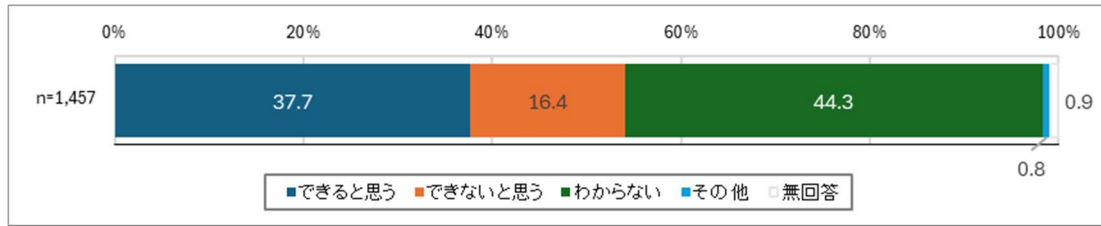
「支援が必要な人への訪問活動」が41.0%で最も多く、次いで「福祉に関する情報提供」33.1%、「わからない」26.9%の順となっています。



## 7 災害時の避難について

問24 災害などの緊急事態が発生した場合、あなたは適切に避難できると思いますか。

「わからない」が44.3%で最も多く、次いで「できると思う」37.7%、「できないと思う」16.4%の順となっています。



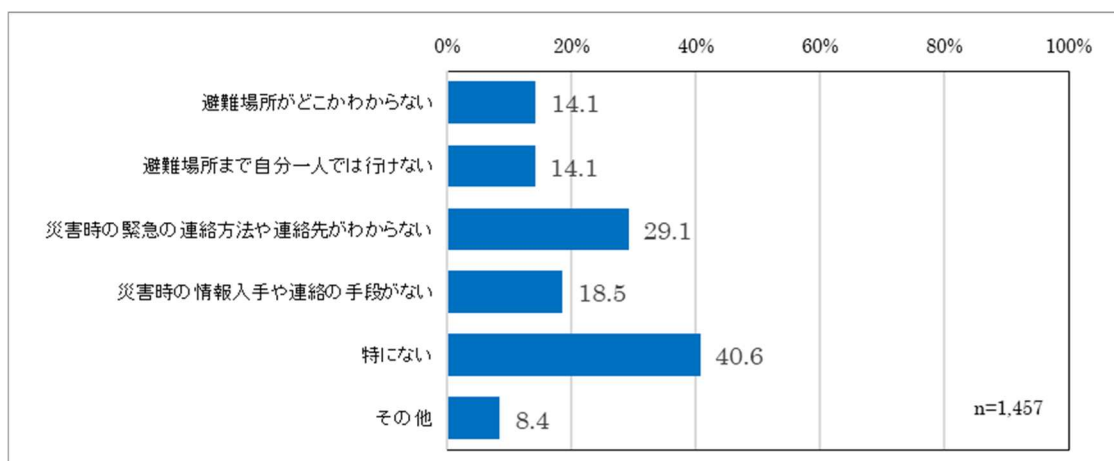
災害時の避難を性別でみると、「できると思う」は「男性」が、「できないと思う」は「女性」が多くなっています。

年齢別では、「できないと思う」は「20歳代」と「70歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	できると思う	できないと思う	わからない	その他	無回答
性別	男性	629	296	85	237	6	5
		100.0	47.1	13.5	37.7	1.0	0.8
	女性	819	252	152	406	5	4
		100.0	30.8	18.6	49.6	0.6	0.5
	その他	4	1	1	2	0	0
	100.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	
年齢	無回答	5	0	1	0	0	4
		100.0	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0
	10歳代	63	26	10	27	0	0
		100.0	41.3	15.9	42.9	0.0	0.0
	20歳代	103	32	25	45	0	1
		100.0	31.1	24.3	43.7	0.0	1.0
	30歳代	130	39	23	67	1	0
		100.0	30.0	17.7	51.5	0.8	0.0
	40歳代	183	63	21	95	2	2
		100.0	34.4	11.5	51.9	1.1	1.1
50歳代	222	84	25	107	4	2	
	100.0	37.8	11.3	48.2	1.8	0.9	
60歳代	305	117	43	142	2	1	
	100.0	38.4	14.1	46.6	0.7	0.3	
70歳以上	444	186	90	162	2	4	
	100.0	41.9	20.3	36.5	0.5	0.9	
無回答	7	2	2	0	0	3	
	100.0	28.6	28.6	0.0	0.0	42.9	

問 25 地震や台風などの災害発生時に、不安に思うことは何ですか。（複数回答）

「特にない」が40.6%で最も多く、次いで「災害時の緊急の連絡方法や連絡先がわからない」29.1%、「災害時の情報入手や連絡の手段がない」18.5%の順となっています。



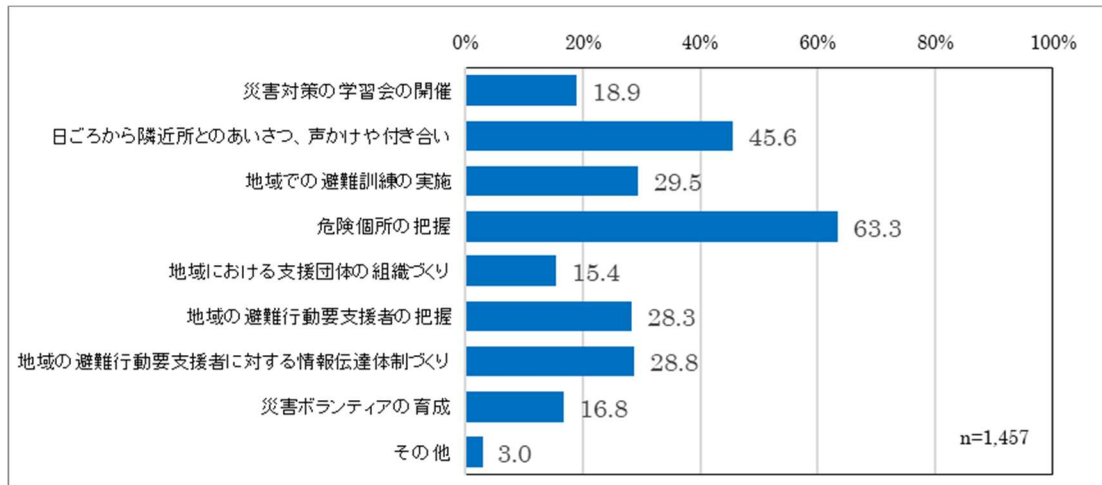
災害発生時に不安に思うことを性別でみると、「避難場所まで自分一人では行けない」は「女性」が多く、「災害時の緊急の連絡方法や連絡先がわからない」は「男性」、「女性」ともに3割近くと多くなっています。

年齢別では、「避難場所がどこかわからない」は「20歳代」が、「避難場所まで自分一人では行けない」、「災害時の情報入手や連絡の手段がない」は「70歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	不安に思う理由					特にない	その他	無回答
			避難場所がどこかわからない	避難場所まで自分一人では行けない	災害時の緊急の連絡先がわからない	災害時の情報入手や連絡の手段がない	災害時の緊急の連絡方法や連絡先がわからない			
性別	男性	629	102	66	188	123	293	42	14	
		100.0	16.2	10.5	29.9	19.6	46.6	6.7	2.2	
	女性	819	104	136	234	145	297	80	29	
		100.0	12.7	16.6	28.6	17.7	36.3	9.8	3.5	
	その他	4	0	3	1	1	2	0	0	
	100.0	0.0	7.5	2.5	2.5	5.0	0.0	0.0		
	無回答	5	0	0	1	0	0	0	4	
		100.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	8.0	
年齢	10歳代	63	6	7	21	18	22	5	1	
		100.0	9.5	11.1	33.3	28.6	34.9	7.9	1.6	
	20歳代	103	26	16	31	24	35	9	3	
		100.0	25.2	15.5	30.1	23.3	34.0	8.7	2.9	
	30歳代	130	24	10	34	19	45	24	3	
		100.0	18.5	7.7	26.2	14.6	34.6	18.5	2.3	
	40歳代	183	25	5	37	27	81	29	5	
		100.0	13.7	2.7	20.2	14.8	44.3	15.8	2.7	
	50歳代	222	23	12	50	26	112	22	7	
	100.0	10.4	5.4	22.5	11.7	50.5	9.9	3.2		
60歳代	305	42	29	97	66	138	16	9		
	100.0	13.8	9.5	31.8	21.6	45.2	5.2	3.0		
70歳以上	444	60	125	153	89	157	17	16		
	100.0	13.5	28.2	34.5	20.0	35.4	3.8	3.6		
	無回答	7	0	1	1	0	2	0	3	
		100.0	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0	42.9	

問26 地震や台風などの災害発生前の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。  
(複数回答)

「危険箇所の把握」が63.3%で最も多く、次いで「日ごろからの隣近所とのあいさつ、声かけや付き合い」45.6%、「地域での避難訓練の実施」29.5%の順となっています。

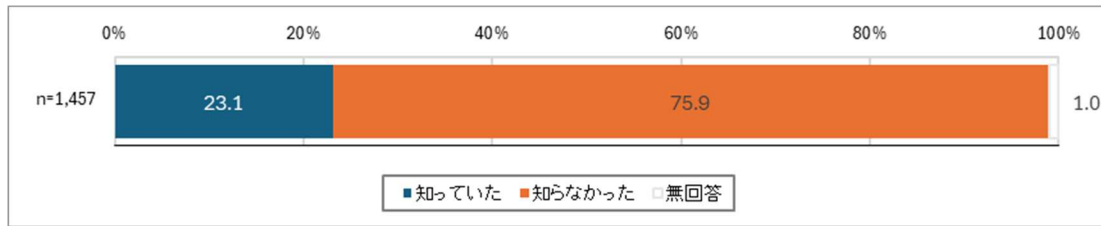


災害時の備えとして重要なことを年齢別でみると、「日ごろからの隣近所との挨拶、声かけや付き合い」は「70歳以上」が多くなっていますが、それ以外の年齢層では「危険箇所の把握」が多くなっています。

属性	区分	全体	災害対策の学習会の開催	日ごろから隣近所とのあいさつ、声かけや付き合い	地域での避難訓練の実施	危険箇所の把握	地域における支援団体の組織づくり	地域の避難行動要支援者の把握	地域の避難行動要支援者に対する情報伝達体制づくり	災害ボランティアの育成	その他	無回答
年齢	10歳代	63	13	13	25	40	6	15	18	13	0	0
		100.0	20.6	20.6	39.7	63.5	9.5	23.8	28.6	20.6	0.0	0.0
	20歳代	103	13	32	33	68	10	29	30	18	2	2
		100.0	12.6	31.1	32.0	66.0	9.7	28.2	29.1	17.5	1.9	1.9
	30歳代	130	25	53	31	97	20	33	39	25	6	0
		100.0	19.2	40.8	23.8	74.6	15.4	25.4	30.0	19.2	4.6	0.0
	40歳代	183	23	64	36	125	23	54	60	27	5	2
		100.0	12.6	35.0	19.7	68.3	12.6	29.5	32.8	14.8	2.7	1.1
	50歳代	222	49	84	52	149	37	64	55	38	13	3
		100.0	22.1	37.8	23.4	67.1	16.7	28.8	24.8	17.1	5.9	1.4
60歳代	305	62	137	99	214	52	101	97	56	11	3	
	100.0	20.3	44.9	32.5	70.2	17.0	33.1	31.8	18.4	3.6	1.0	
70歳以上	444	90	280	153	230	76	117	119	68	5	11	
	100.0	20.3	63.1	34.5	51.8	17.1	26.4	26.8	15.3	1.1	2.5	
無回答	7	1	1	1	0	0	0	1	0	1	3	
	100.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	42.9	

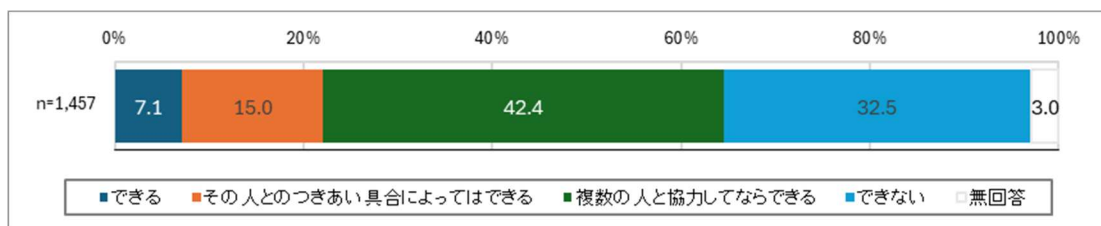
問 27 佐賀市では、「避難行動要支援者支援制度」に取り組んでいます。あなたはこの取り組みを知っていましたか。

佐賀市が「避難行動要支援者支援制度」に取り組んでいることを、「知らなかった」が75.9%で、「知っていた」は23.1%となっています。



問 28 あなたは近所の避難行動要支援者の避難支援員になることができますか。

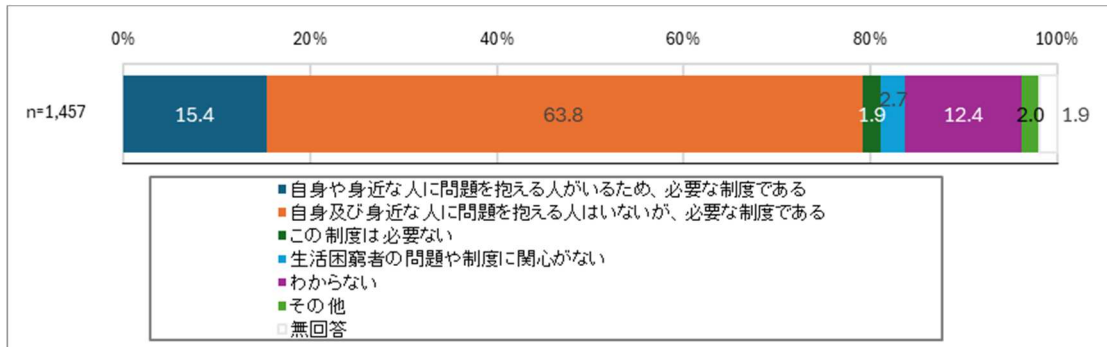
「複数の人と協力してならできる」が42.4%で最も多く、次いで「できない」32.5%、「その人との付き合い具合によってはできる」15.0%の順となっています。



## 8 生活困窮者の自立支援について

問 29 あなたは生活困窮者の問題や支援について、どのように思いますか。

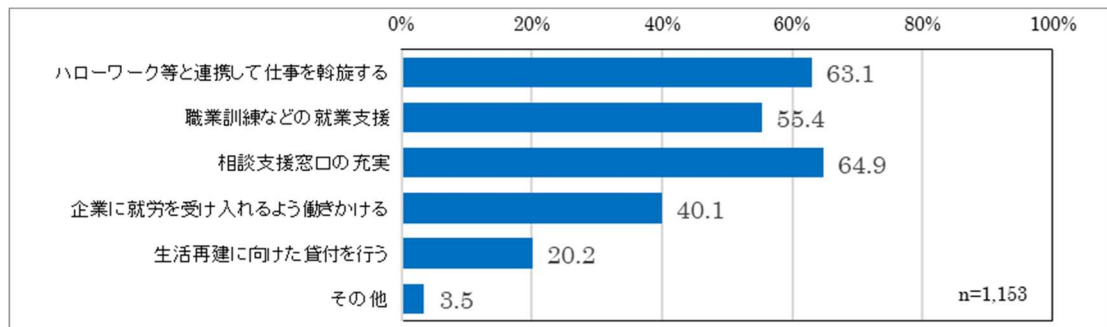
「自身及び身近な人に問題を抱える人はいないが、必要な制度である」が63.8%で最も多く、次いで「自身や身近な人に問題を抱える人がいるため、必要な制度である」15.4%、「わからない」12.4%の順となっています。



問 29 で「自身や身近な人に問題を抱える人がいるため、必要な制度である」「自身及び身近な人に問題を抱える人はいないが、必要な制度である」と回答した方

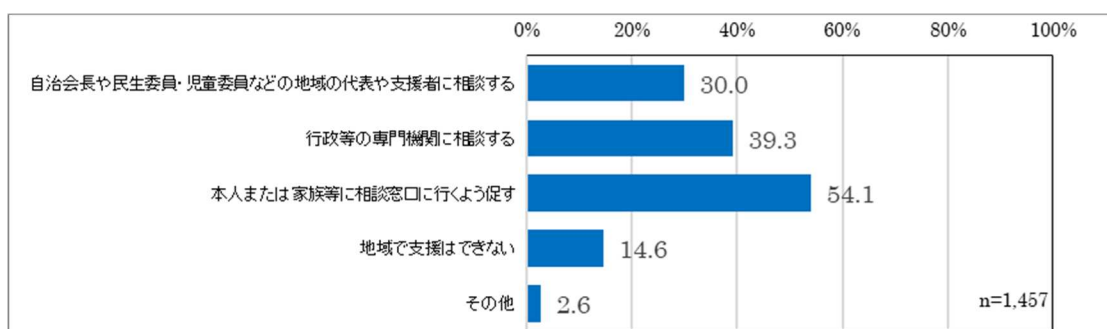
問 29-1 生活困窮者の自立支援に向けて、市が行うべき支援として望ましいと思うのはどのような取り組みですか。（複数回答）

「相談支援窓口の充実」が64.9%で最も多く、次いで「ハローワーク等と連携して仕事を斡旋する」63.1%、「職業訓練などの就業支援」55.4%の順となっています。



問 30 地域で生活困窮者を支援する場合、あなたならどのような支援が出来ると思いますか。（複数回答）

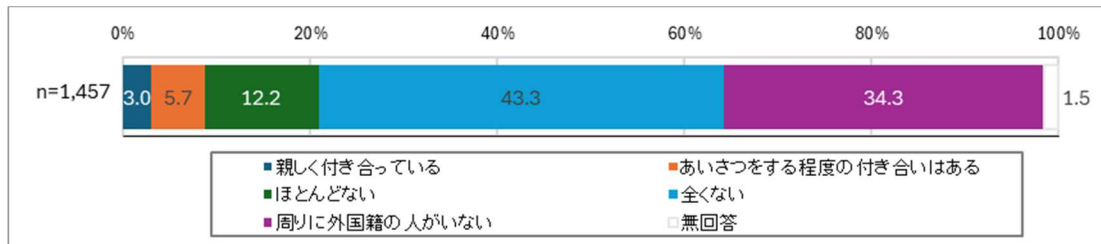
「本人または家族等に相談窓口に行くよう促す」が54.1%で最も多く、次いで「行政等の専門機関に相談する」39.3%、「自治会長や民生委員・児童委員などの地域の代表や支援者に相談する」30.0%の順となっています。



## 9 外国籍の方との関わりについて

問 31 近隣の外国籍の方との付き合いはありますか。

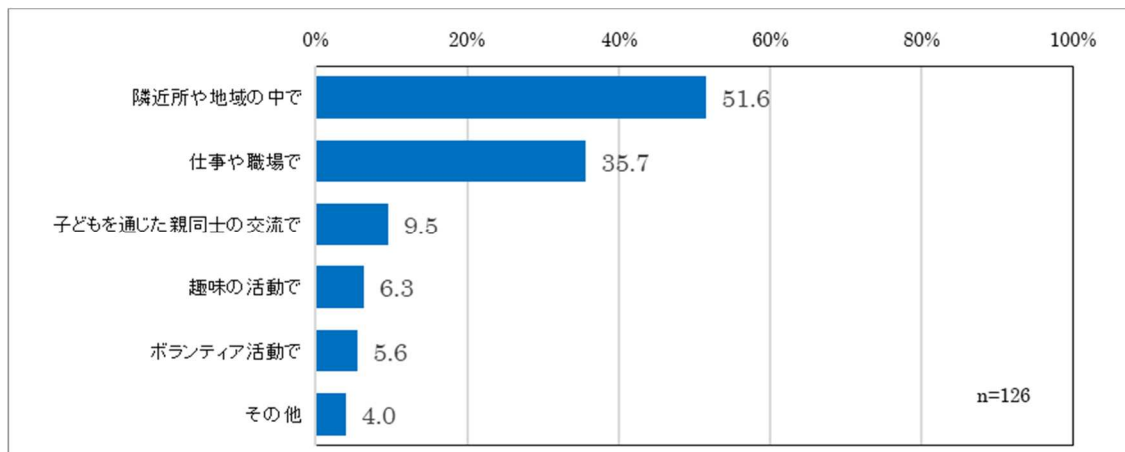
「全くない」が43.3%で最も多く、次いで「周りに外国籍の方がいない」34.3%、「ほとんどない」12.2%の順となっています。



問 31 で「親しく付き合っている」「あいさつをする程度の付き合いはある」と回答した方

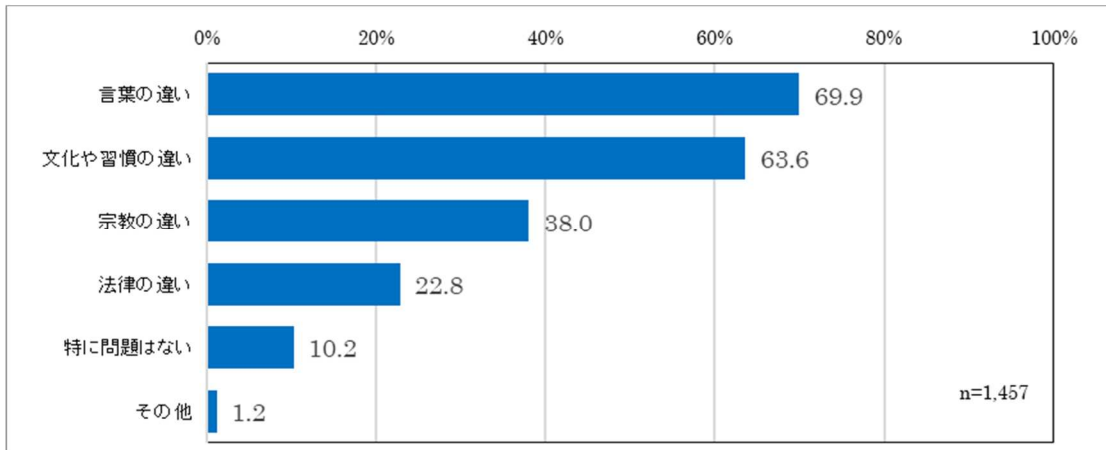
問 31-1 どのようなところで付き合いがありますか。(複数回答)

「隣近所や地域の中で」が51.6%で最も多く、次いで「仕事や職場で」35.7%、「子どもを通じた親同士の交流で」9.5%の順となっています。



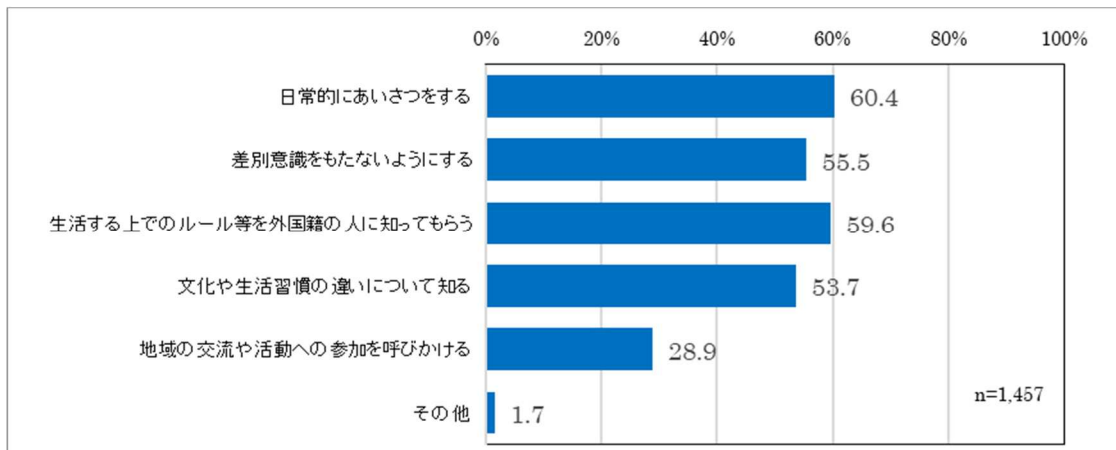
問 32 外国籍の人との交流で困ると思われるものは何ですか。(複数回答)

「言葉の違い」が69.9%で最も多く、次いで「文化や習慣の違い」63.6%、「宗教の違い」38.0%の順となっています。



問 33 外国籍の人との相互理解を深めるために地域で必要と思うことは何ですか。(複数回答)

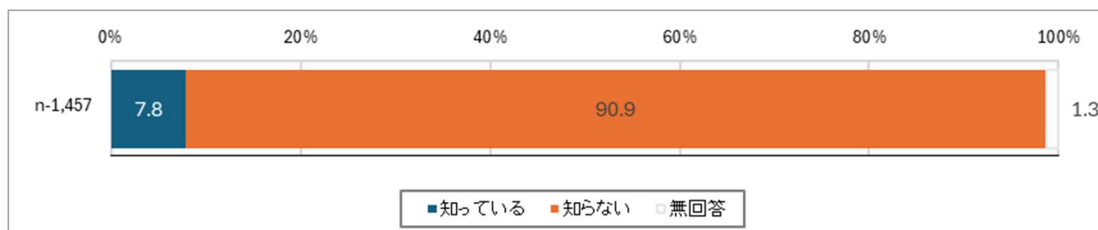
「日常的にあいさつをする」が60.4%で最も多く、次いで「生活する上でのルール等を外国籍の人に知ってもらおう」59.6%、「差別意識を持たないようにする」55.5%の順となっています。



## 10 「再犯防止」に関することについて

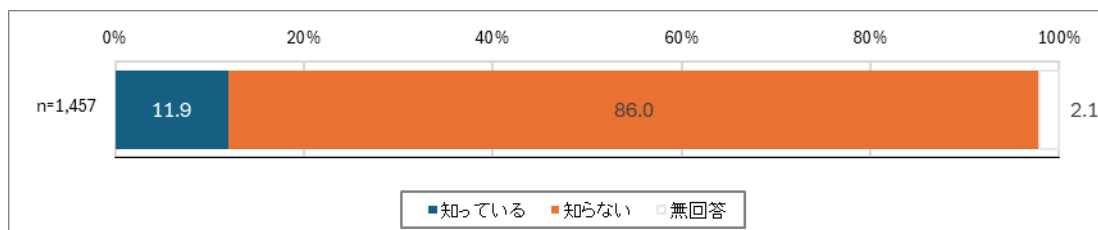
問 34 あなたは、全国における刑法犯認知件数が平成 14 年（2002 年）をピークに減少傾向であり、佐賀市においても、市町村合併をした平成 19 年（2007 年）と比較すると、令和 5 年（2023 年）には合併当時の 3 割程度まで大きく減少していることを知っていますか。

「知らない」が 90.9%で、「知っている」は 7.8%となっています。



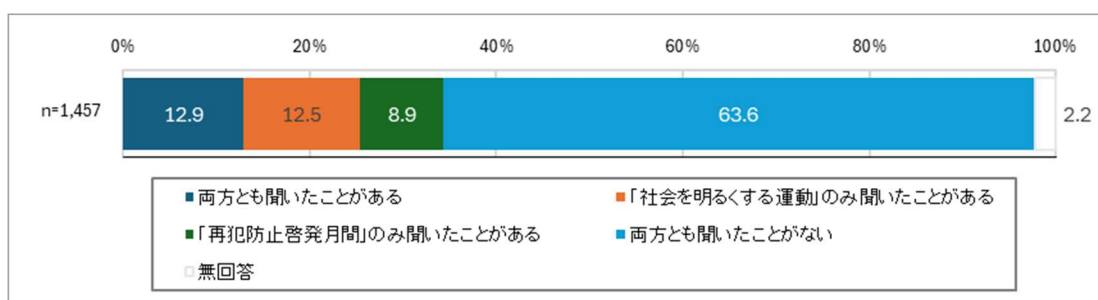
問 35 あなたは、刑法犯認知件数が減少している一方で、検挙者に占める再犯者の割合（再犯者率）が 50% 近くで高止まりしていることを知っていますか。

「知らない」が 86.0%で、「知っている」は 11.9%となっています。



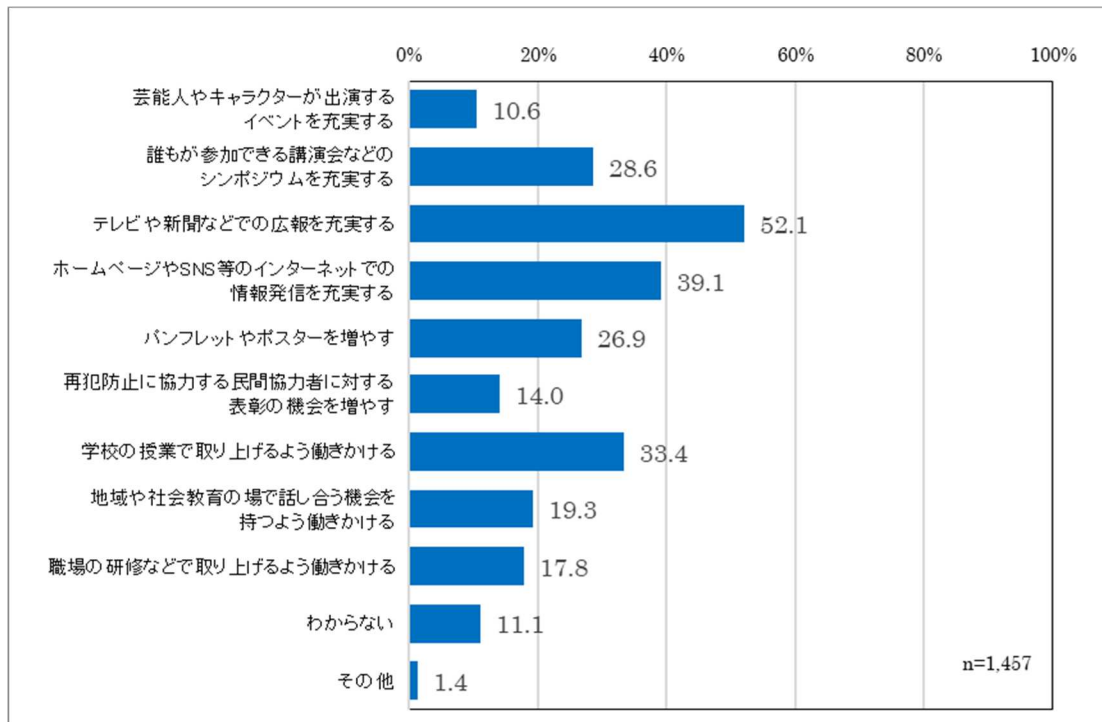
問 36 あなたは、再犯防止に関する広報・啓発活動の取組である「社会を明るくする運動」又は「再犯防止啓発月間」を聞いたことがありますか。

「両方とも聞いたことがない」が 63.6%で最も多く、「両方とも聞いたことがある」12.9%、「社会を明るくする運動」のみ聞いたことがある」12.5%、「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがある」8.9%の順となっています。



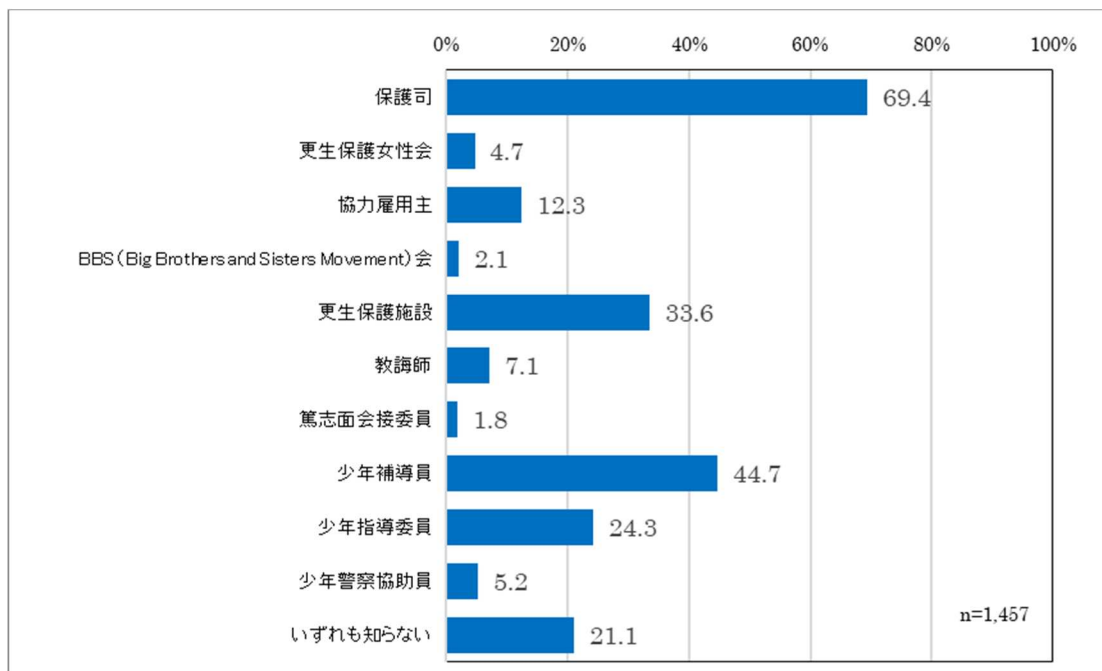
問37 あなたは、再犯防止に関して、広く市民の理解や関心を深めるため、何をすべきだと思いますか。（複数回答）

「テレビや新聞などでの広報を充実する」が52.1%で最も多く、「ホームページやSNS等のインターネットでの情報発信を充実する」39.1%、「学校の授業で取り上げるよう働きかける」33.4%の順となっています。



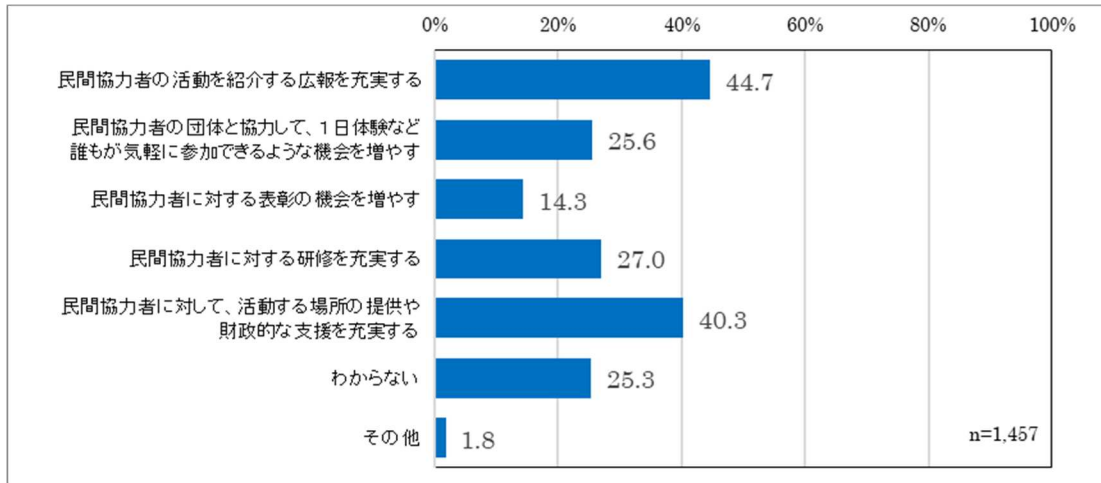
問38 あなたは、再犯防止に関する民間協力者として、次の人々がいることを知っていますか。（複数回答）

「保護司」が69.4%で最も多く、「少年補導員」44.7%、「更生保護施設」33.6%の順となっています。



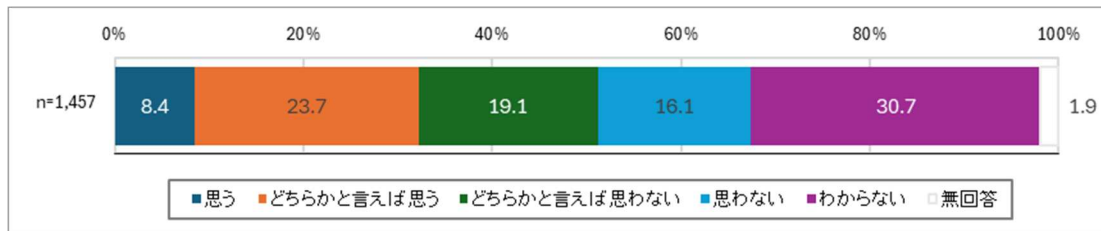
問 39 あなたは、民間協力者を増やすために、何をすべきだと思いますか。(複数回答)

「民間協力者の活動を紹介する広報を充実する」が44.7%で最も多く、「民間協力者に対して、活動する場所の提供や財政的な支援を充実する」40.3%、「民間協力者に対する研修を充実する」27.0%の順となっています。



問40 あなたは、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。

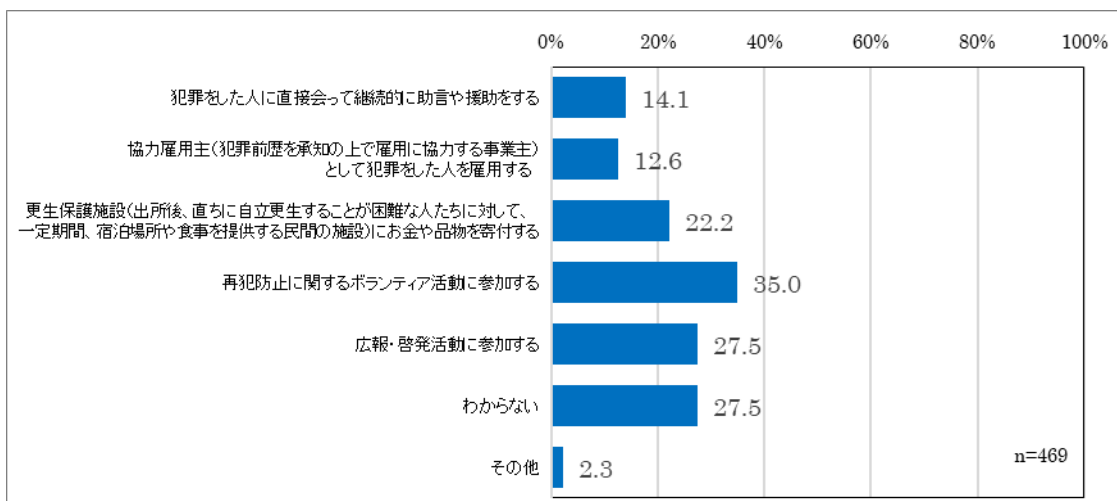
「わからない」が30.7%で最も多く、「どちらかと言えば思う」23.7%、「どちらかと言えば思わない」19.1%の順となっています。



問40で「思う」「どちらかといえば思う」と回答した方

問40-1 どのような協力をしたいと思いますか。(複数回答)

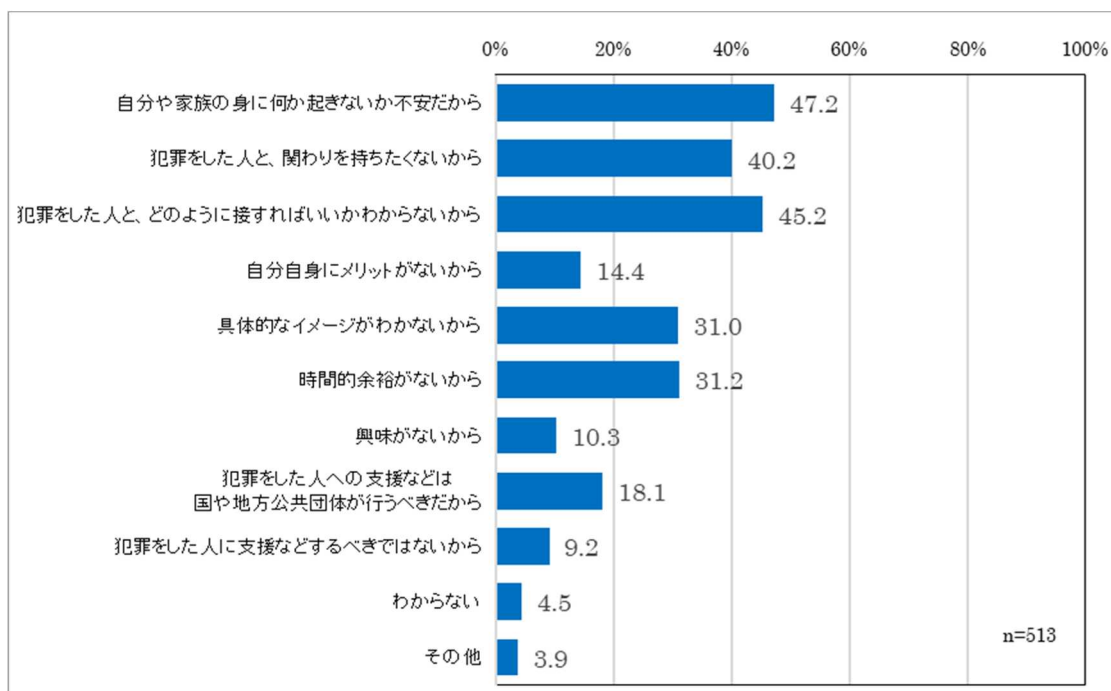
「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」が35.0%で最も多く、次いで「広報・啓発活動に参加する」および「わからない」が27.5%が続いています。



## 問40で「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した方

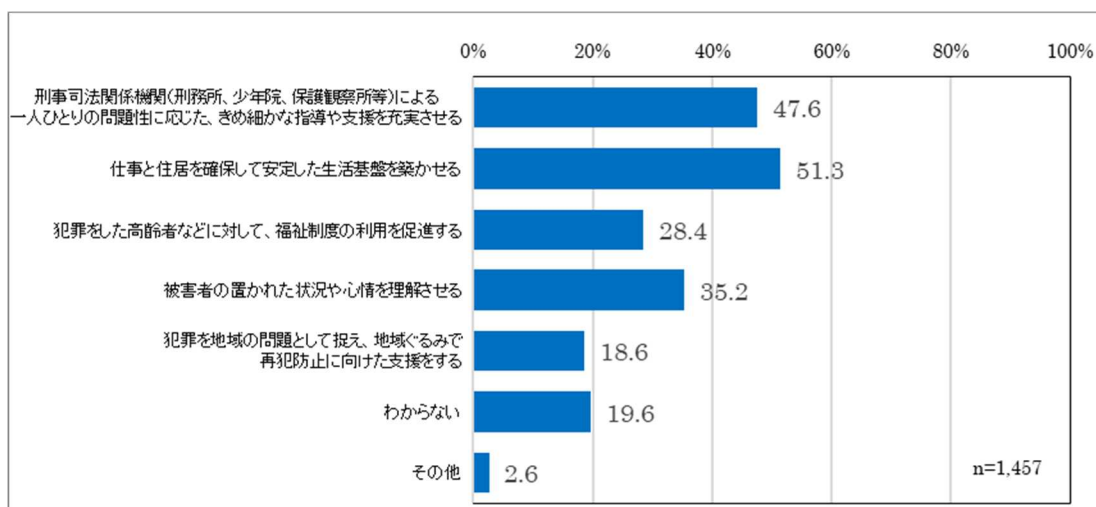
### 問40-2 協力したいと思わない理由を教えてください。(複数回答)

「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」が47.2%で最も多く、次いで「犯罪をした人と、どのように接すればいいかわからないから」45.2%、「犯罪をした人と、関わりを持ちたくないから」40.2%の順となっています。



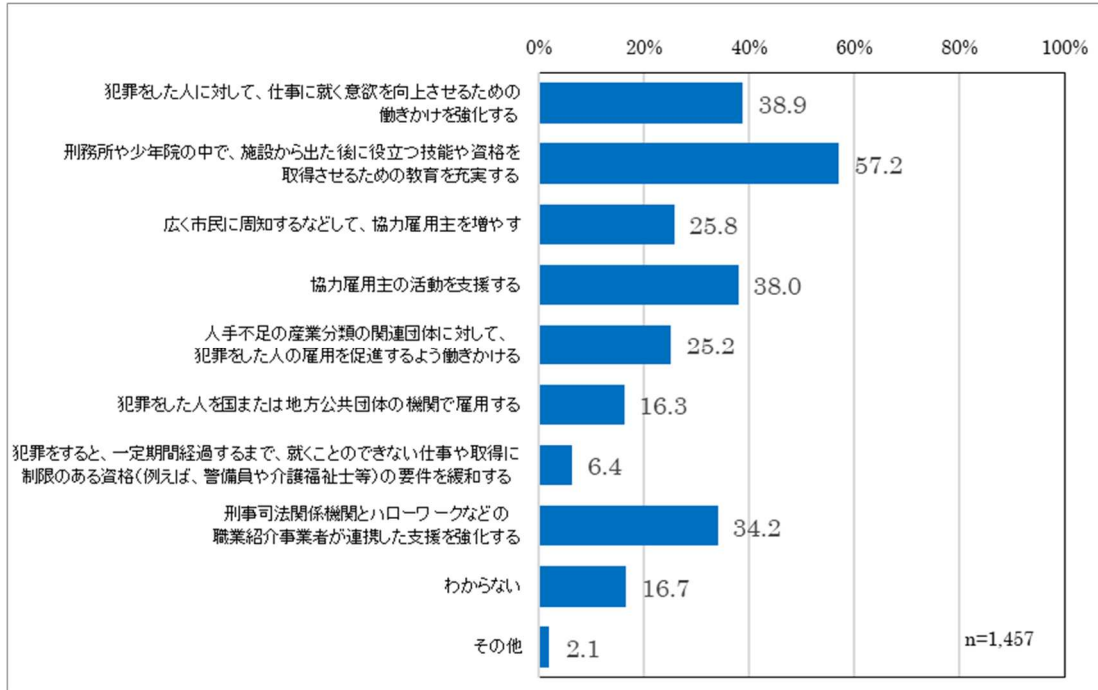
### 問41 あなたは、再犯防止のためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

「仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築かせる」が51.3%で最も多く、次いで「刑事司法関係機関(刑務所、少年院、保護観察所等)による一人ひとりの問題性に応じた、きめ細かな指導や支援を充実させる」47.6%、「被害者の置かれた状況や心情を理解させる」35.2%の順となっています。



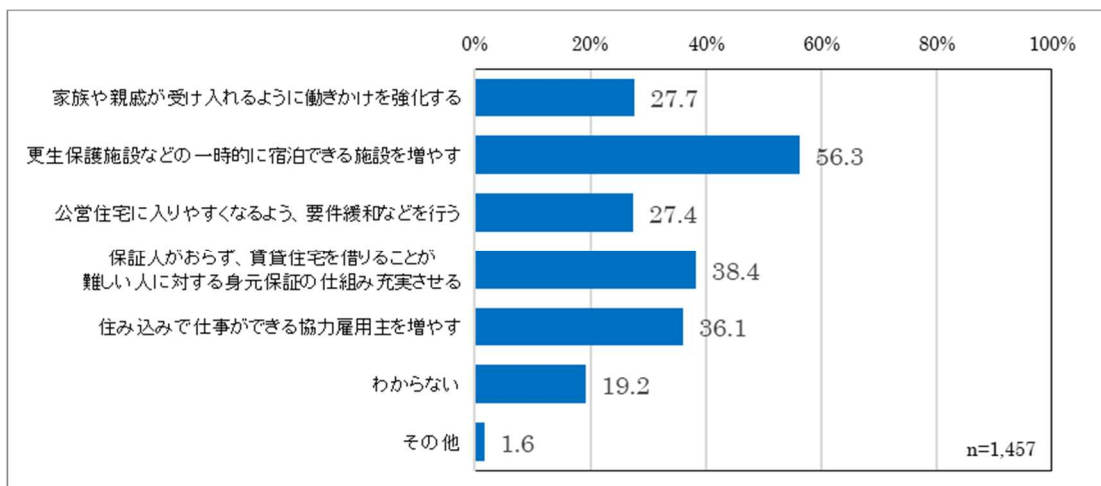
問42 仕事に就いていない人の再犯率は、仕事に就いている人の再犯率に比べて約3倍となっています。そこで犯罪をした人が仕事に就くために、何をすべきだと思いますか。(複数回答)

「刑務所や少年院の中で、施設から出た後に役立つ技能や資格を取得させるための教育を充実する」が57.2%で最も多く、次いで「犯罪をした人に対して、仕事に就く意欲を向上させるための働きかけを強化する」38.9%、「協力雇用主の活動を支援する」38.0%の順となっています。



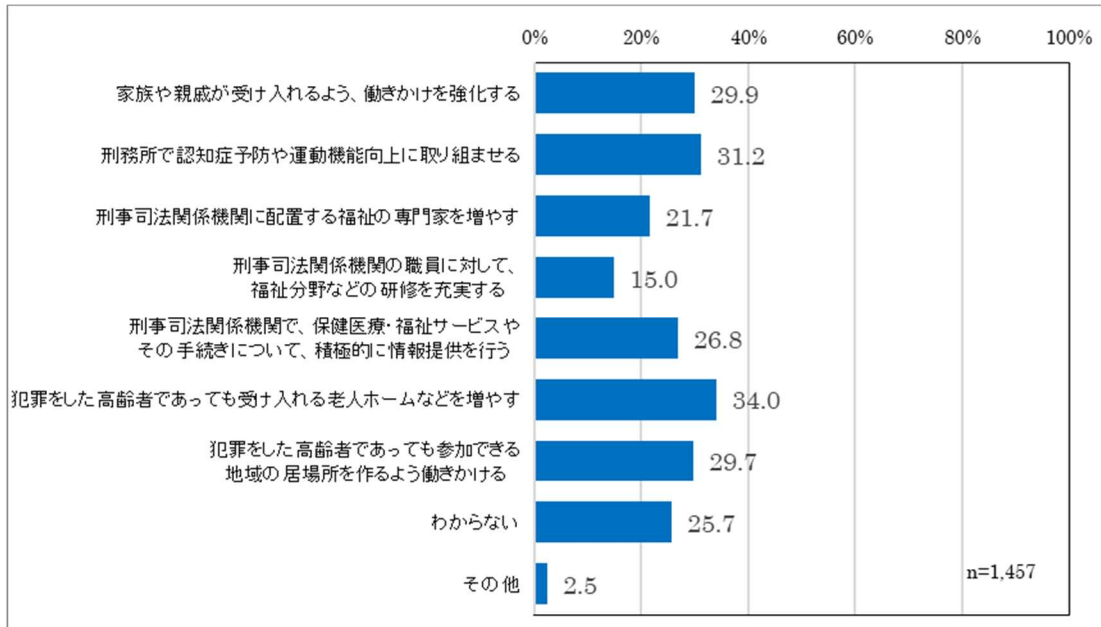
問43 刑務所を出ても住む場所がない人は、住む場所がある人に比べて、再犯に至るまでの期間が短くなっています。そこで、犯罪をした人が住む場所を見つけるために、何をすべきだと思いますか。(複数回答)

「更生保護施設などの一時的に宿泊できる施設を増やす」が56.3%で最も多く、次いで「保証人がおらず、賃貸住宅を借りることが難しい人に対する身元保証の仕組み充実させる」38.4%、「住み込みで仕事ができる協力雇用主を増やす」36.1%の順となっています。



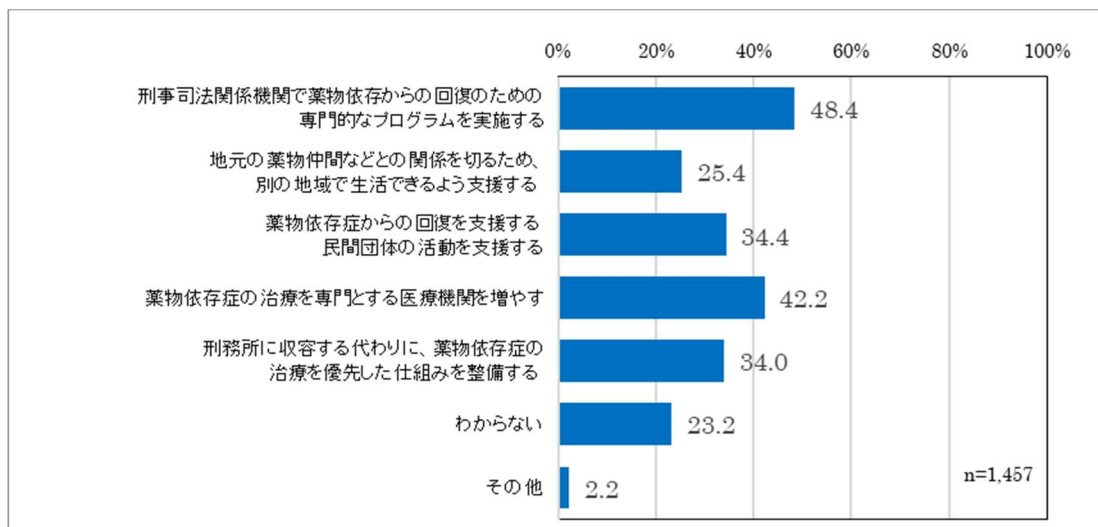
問44 65歳以上の高齢者が刑務所出所後2年以内に再び刑務所に入所する割合は、全世代の中でも高くなっています。そこで、高齢者の再犯を防ぐために、何をすべきだと思いますか。（複数回答）

「犯罪をした高齢者であっても受け入れる老人ホームなどを増やす」が34.0%で最も多く、次いで「刑務所で認知症予防や運動機能向上に取り組ませる」31.2%、「家族や親戚が受け入れるよう、働きかけを強化する」29.9%の順となっています。



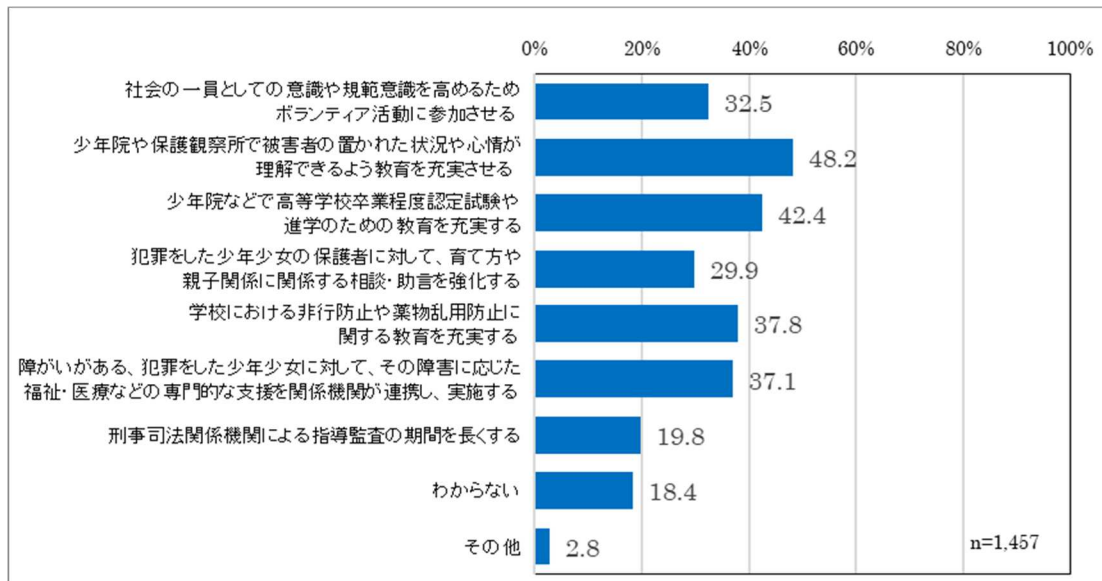
問45 覚せい剤取締法違反により受刑した人が刑務所出所後2年以内に再び刑務所に入所する割合は、他の犯罪と比べて高い傾向にあります。そこで、薬物依存者の再犯を防ぐために、何をすべきだと思いますか。（複数回答）

「刑事司法関係機関で薬物依存からの回復のための専門的なプログラムを実施する」が48.4%で最も多く、次いで「薬物依存症の治療を専門とする医療機関を増やす」42.2%、「薬物依存症からの回復を支援する民間団体の活動を支援する」34.4%の順となっています。



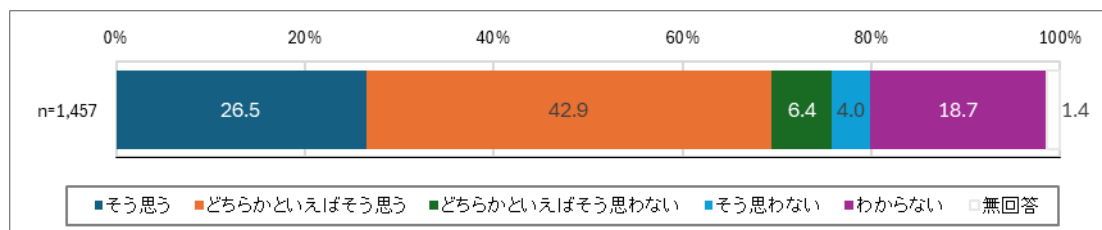
問46 犯罪をした少年少女の再犯防止のために、何をすべきだと思いますか。(複数回答)

「少年院や保護観察所で被害者の置かれた状況や心情が理解できるよう教育を充実させる」が48.2%で最も多く、次いで「少年院などで高等学校卒業程度認定試験や進学のための教育を充実する」42.4%、「学校における非行防止や薬物乱用防止に関する教育を充実する」37.8%の順となっています。



問47 「再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる『誰一人取り残さない』社会の実現が大切である」という意見に対し、どう思いますか。

「どちらかといえばそう思う」が42.9%で最も多く、次いで「そう思う」26.5%、「わからない」18.7%の順になっています。



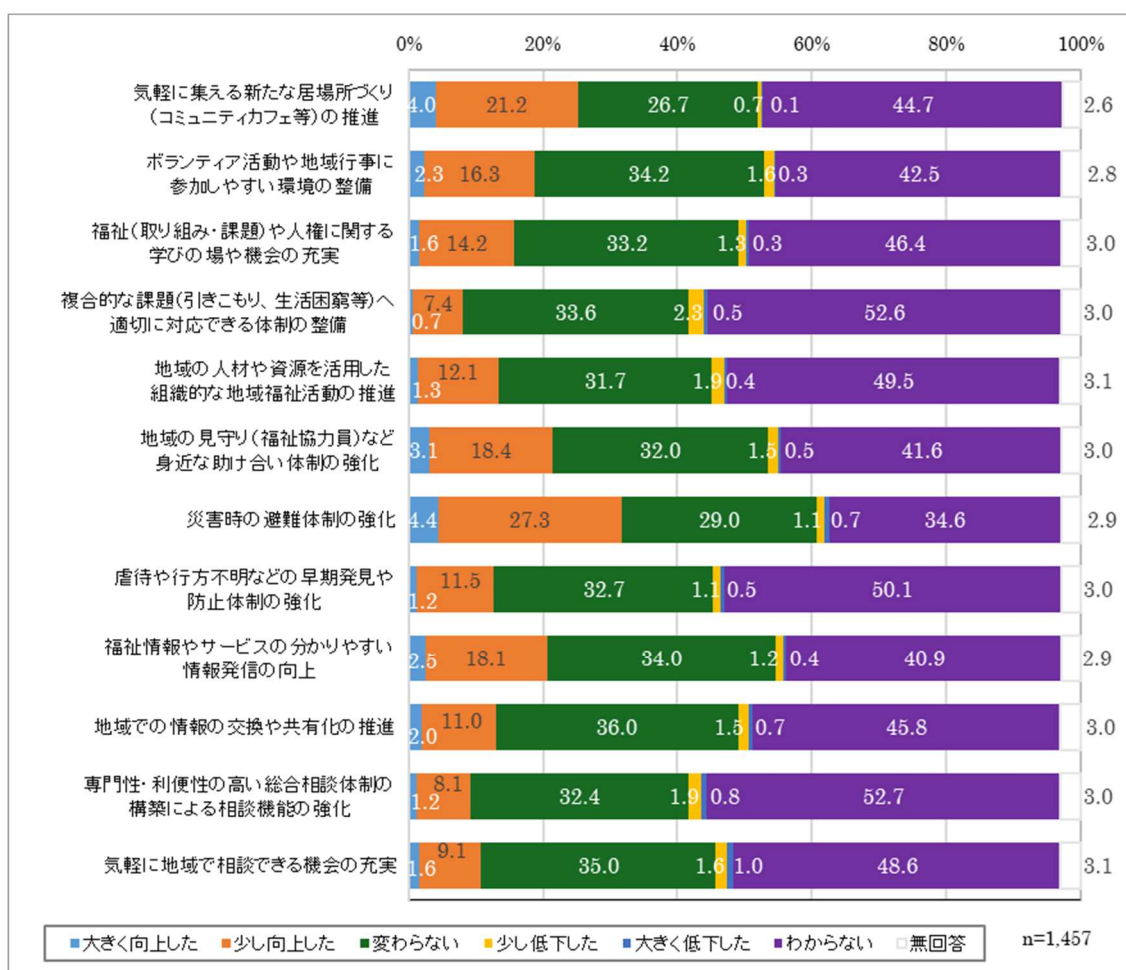
## 11 今後の地域福祉のあり方について

問48 佐賀市では、令和3年度に第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定して、地域福祉の推進及び向上を図ってきましたが、策定時からこれまでの間、次に掲げる項目について、どの程度向上したと感じますか。

全ての項目で、「わからない」が最も多く、次いで「変わらない」が多くなっていますが、「大きく向上した」や「向上した」の回答もみられます。

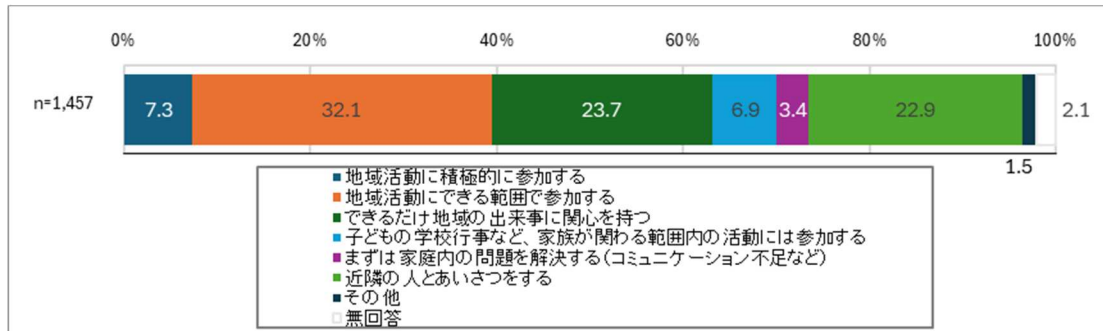
「大きく向上した」や「向上した」の中で多いのは、「災害時の避難体制の強化」、「気軽に集える新たな居場所づくり（コミュニティカフェ等）の推進」、「地域の見守り（福祉協力員）など身近な助け合い体制の強化」の順となっています。

一方、「大きく向上した」や「向上した」という回答が少ないのは、「複合的な課題（引きこもり、生活困窮等）へ適切に対応できる体制の整備」、「専門性・利便性の高い総合相談体制の構築による相談機能の強化」、「気軽に地域で相談できる機会の充実」の順となっています。



問49 住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、住民としてあなたができることは何ですか。

「地域活動にできる範囲で参加する」が32.1%で最も多く、次いで「できるだけ地域の出来事に関心を持つ」23.7%、「近隣の人とあいさつをする」22.9%の順となっています。



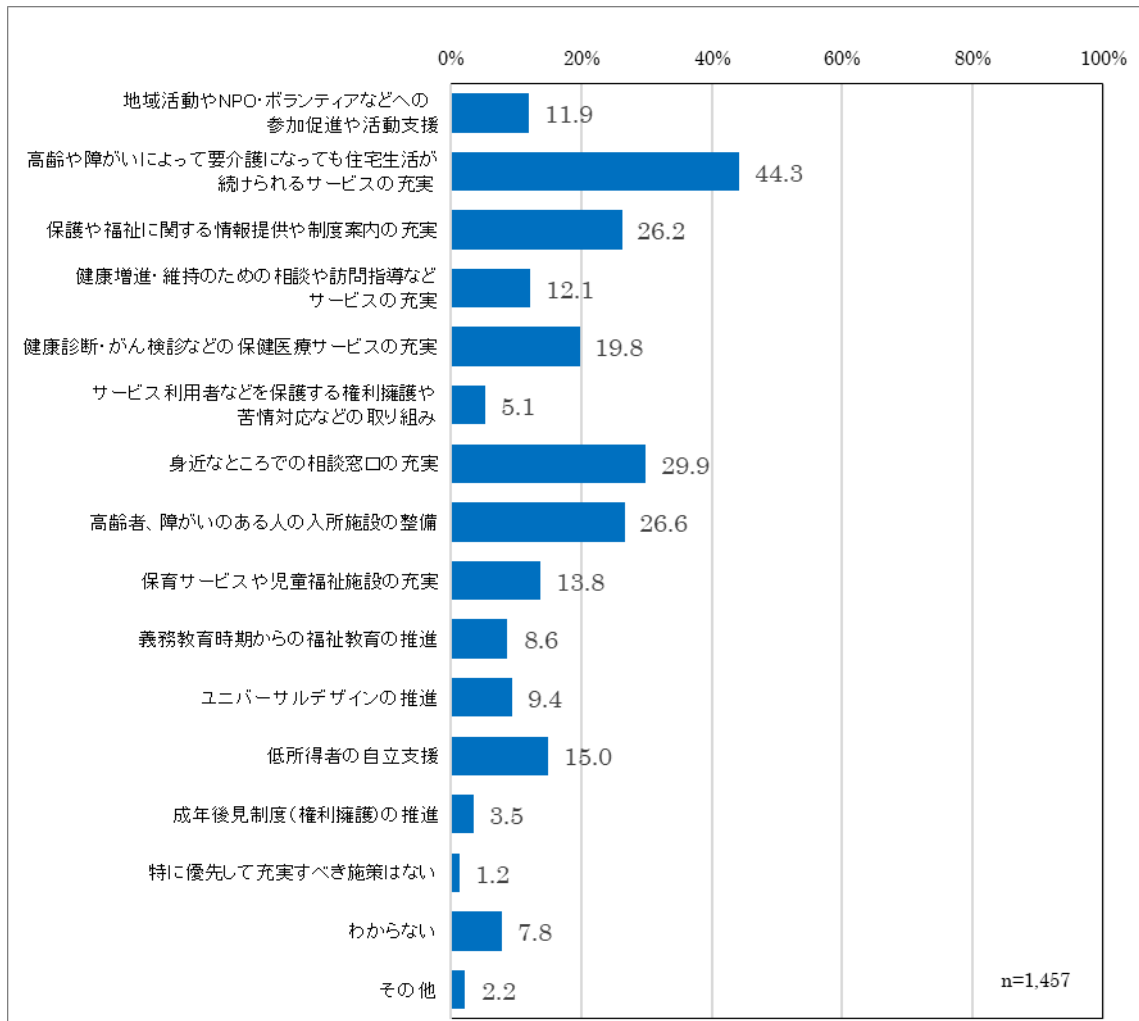
住み慣れた地域で安心して暮らしていくためにできることを性別でみると、「地域活動に積極的に参加する」、「地域活動にできる範囲で参加する」は「男性」が、「近隣の人とあいさつをする」は「女性」が多くなっています。

年齢別では、「地域活動にできる範囲で参加する」は「60歳以上」が、「できるだけ地域の出来事に関心を持つ」は「20～30歳代」が多くなっています。

属性	区分	全体	回答内容							
			地域活動に積極的に参加する	地域活動にできる範囲で参加する	できるだけ地域の出来事に関心を持つ	子どもの学校行事など、家族が関わる範囲内の活動には参加する	まずは家庭内の問題を解決する(コミュニケーション不足など)	近隣の人とあいさつをする	その他	無回答
性別	男性	629	63	234	142	28	22	118	11	11
		100.0	10.0	37.2	22.6	4.5	3.5	18.8	1.7	1.7
	女性	819	44	233	203	71	28	214	10	16
		100.0	5.4	28.4	24.8	8.7	3.4	26.1	1.2	2.0
	その他	4	0	1	1	1	0	1	0	0
		100.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	無回答	5	0	0	0	0	0	1	1	3
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0
年齢	10歳代	63	7	15	13	9	2	17	0	0
		100.0	11.1	23.8	20.6	14.3	3.2	27.0	0.0	0.0
	20歳代	103	8	19	30	14	4	25	2	1
		100.0	7.8	18.4	29.1	13.6	3.9	24.3	1.9	1.0
	30歳代	130	3	25	35	31	5	28	3	0
		100.0	2.3	19.2	26.9	23.8	3.8	21.5	2.3	0.0
	40歳代	183	5	50	42	28	9	45	3	1
		100.0	2.7	27.3	23.0	15.3	4.9	24.6	1.6	0.5
	50歳代	222	13	69	55	13	7	60	2	3
		100.0	5.9	31.1	24.8	5.9	3.2	27.0	0.9	1.4
60歳代	305	29	117	72	1	14	61	7	4	
	100.0	9.5	38.4	23.6	0.3	4.6	20.0	2.3	1.3	
70歳以上	444	42	173	97	4	8	97	5	18	
	100.0	9.5	39.0	21.8	0.9	1.8	21.8	1.1	4.1	
	不明	7	0	0	2	0	1	1	0	3
		100.0	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	42.9

問50 今後、佐賀市が取り組むべき施策として、次のうちどれを優先して充実すべきだと思いますか。（三つまでに○）

「高齢や障がいによって要介護になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」が44.3%で最も多く、次いで「身近なところでの相談窓口の充実」29.9%、「高齢者、障がいのある人の入所施設の整備」26.6%の順となっています。



問51 誰もが住みよいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。※原文のまま記載しています。

性別	年齢	誰もが住みよいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望(抜粋)
男性	20歳代	私は現在26才なのですが、自分の親に介護が必要となる場合、若いうちから話し合っておくべきことや備えについて、今のうちから勉強できるようにしてほしいです。これから産まれてくる子どもや、今小さな子どもたちへ力になるならなんでもしたいと思います。たくさん遊べるような場所をもっと作って良いと思うし、どんな子どもたちでも楽しめる市になってほしいと思います。
女性	20歳代	高齢社会の中で、サービスを必要とする人が増えているのが現状だと思います。サービスを受ける人が増えているが、サービスを提供する人が増えているわけではないので、そこが問題点です。まずは、健康増進で検診やワクチン接種、健康相談をしやすい環境作りが必要だと思います。高齢者は認知症や病気等で、通院や自宅での生活が困難なこともあるため、サービスや施設を増やしてほしいです。病院に入院するにも限度があり、なるべくどの人も平等にサービスを受けられるように優先度を考えていく必要はあると思います。少年少女など犯罪をおかした子たちに、施設での介護体験や仕事をしてもらうのもいいかなと思います。仕事がないと再犯率が上がるとの事ですが、できる仕事や適性をみて仕事を提供してあげられるようにハローワークの充実も必要かと思います。佐賀市の医療・福祉サービスの充実、向上ができるように私も出来ることを頑張りたいと思います。
女性	20歳代	高齢化社会といわれている通り、周りにはお年寄りが多くなったと感じます。逆に若者の数は減ってきており、老々介護のような世帯も増えていると感じます。自分も、祖母の介護などをする事もありますが、仕事をしながらの介護は、体力的にも精神的にも辛いことが多いです。また、仕事で家に誰もいない時に認知が出ている高齢者を1人で家にいさせるのは危ないと、自分自身の経験からも感じています。福祉サービスが今よりも向上し、サポート等が増える事で、悩みを抱えている人々が少しでも楽になると思います。家族だけでなく、地域、市町、県などの行政との連携がとても大切になってくると思います。
男性	20歳代	佐賀市ではせっかく様々な福祉サービスが展開されているにも関わらず、そのほとんどが十分に周知されておらず、市民の多くがサービスの存在すら認知していないという現状に非常にもったいなさを感じています。情報提供や制度案内の機会を充実させることももちろん重要ですが、それよりも、情報提供や制度案内の手法自体を見直してみてもいいのではないでしょうか。私にとっては、佐賀市は今でも十分住みよい街ですが、全市民が住みよい街と感じられるようになることを期待しています。
女性	30歳代	職場で外国人の人とよく関わります。佐賀の暮らしが好きだと言う人もいれば、時に日本人から心ない言葉をかけられたとか、日本の手続きが複雑でわからないなどといったことも聞きます。私自身が日本人の人が「これだから外国人は」のようなことを言っているのを聞いたこともあります。でも外国人の中には、自分が望んで日本に来た人もいれば、そうじゃない人もいます。また佐賀に住む多くの外国人は日本や佐賀の産業や人手不足の部分を支えるために働いています。介護分野でも多くの外国人が活躍しています。ぜひこういった社会構造の部分から日本人の方々知ってもらい、みんなが協力して住みやすい町がつくっていったらいいなと思います。それから、日頃から市営バスを使っているのですが、ホームページが慣れていないと使いづらいなと思います。
男性	30歳代	サービスの評価は、対象へ周知されている事が前提になるかと思います。よってサービスを作るより、今あるサービスを評価できる前提を整えるべきです。Webに「佐賀市、精神障害、サービス」と訪ねても、制度の名前が先に来ている。「自分はどんなサービスが受けられるのか」に対する案内は、相談できる窓口なりAIなりに直接つなげる事ではないでしょうか。現有のサービスが十全に機能すれば課題の多くは除かれると思います。調査が有効に使われるよう願っております。ありがとうございます。
男性	30歳代	障がいに対して排他的な点が目につきます。本人達もかくそうとする意識がある。そうすると何かあったときに支えられないし、助けられない。まず支え助けやすくする為に障害への差別感のかべを低くして欲しいです。

性別	年齢	誰もが住みよいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望(抜粋)
男性	30 歳代	福祉に関する知識がないことを改めて知りました。自分自身で情報収集する必要もあると思いますが、周知活動が足りないのではないのでしょうか？ 私は 3 人の子どもの父親ですが、共働きの子育て環境は改善の余地があります。民間企業は理解がなく、男性の育児休暇など取得しにくい現状です。私は金融機関に勤務していましたが、結局転職をすることになりました。現在は県の外郭団体に勤務していますが、休暇はとても取りやすいです。民間企業は利益重視であり、男性の子育てに対する意識は低いです(特に佐賀県) 行政に対しても子育てに関する政策はまだ甘いと思います。多子世帯への税金減額や給食費等の免除などできないのでしょうか？学校給食は年々内容が貧相になっています。福祉の充実も大事だと思いますが、子どもたちの学校現場の現状や子育て世代である親の現状を今一度、認識していただきたいと思います。佐賀市の益々の発展に寄与したく私個人でできることも精一杯やっていきたいと思いますので、よろしく願います。
女性	40 歳代	私は40代ですが、まずは同年代で集える場所(機会)があればなあと思います。異年代の方というより同年代の人とつながり、仕事のこと、家庭のこと、相談したり助け合ったりしたいのですが、なかなかそういう機会がないなあと思ってます。
女性	40 歳代	「ありがとう」感謝の気持ちを 1 人 1 人が持ち伝えていけたら、全てが上手くいくと思います。いつも、市民のために考え動いてくださり、ありがとうございます。
女性	40 歳代	買い物する場所が近くにないので、車の運転ができなくなったら購入先がない。高齢者の運転免許の返納にも支障がある。移動販売車や店舗の誘致など行政支援をしてほしい。自治体活動をする人も高齢化し、地域の維持ができなくなりつつある。
女性	40 歳代	身内に知的障害者があり、自分に余裕ができたなら(子育てが一段落したら)、なにかボランティアができないかと考えている。佐賀市の地域福祉のボランティア活動について、積極的に公報してもらえると勉強になるのでありがたいです。
女性	40 歳代	働いている世代がまちづくりに関わるのは時間的にも難しいことが多い。高齢者、障がい者等すべての人ができる役割をになっていける場所や人や物があれば良いのではないのでしょうか。
女性	40 歳代	相談できる場所がある事をもっとひろめてほしい。「こういう事で困ってたら、ここへ相談してみよう」というような情報をだれもが目につくところに情報公開してほしい。家族が相談できずにふさぎこんでいたので、みんなに情報が届いていないんだと思った。もっと気軽に相談できるという事をひろめてもらえたらいいなと思います。よろしく願います。(まだ家族は相談できていません。ハードルが高く感じてるようです)
男性	40 歳代	「住みやすい街」が佐賀市の生き残るキーワードと思っています。
女性	40 歳代	高齢者、犯罪者などの弱者支援ばかりフォーカスされ、地道に真面目に生活している納税者が年々高くなる物価や税金により疲弊し、力を失っている。ボランティアをしてくださる方はとても有り難いと感じていますが、人材不足から、地域内で強制や押し付けまがいの勧誘があることも事実です。ボランティアに頼らず、ある程度の報酬を払い、街を守っていくことが必要な時期に入っていると感じます。
女性	40 歳代	市民が何かに困った時にとりあえず相談出来る窓口があると嬉しいです。その窓口から必要な支援に繋げてもらえたり、回答がもらえたり、市として改善に繋げてもらえたりしたら、最高ですね。流行りのチャットで相談しても、うまく伝わらなければ相談できないし、掲示板や問い合わせフォームなどで相談出来るといいかなと思います。 安心して暮らせる、活き活きと活躍できる佐賀市にしていきたいですね。
女性	50 歳代	高齢者になり車に乗れなくなった時、公共の乗り物が少なすぎる。バスの本数増加希望など
男性	50 歳代	高齢化による空き家問題は、年々増え続けている状況かと思っています。地区行事(河川清掃)もある程度の高齢者は不参加で良いけども、人数減少となると、負担も増えますが、休憩時間をはさむと多少のコミュニケーションで情報交換もできる唯一の賑いの場になり、地区行事も長く続けたいものです。…保健福祉での障害者枠の予防接種等の無償化を充実させてほしいと思うこの頃です。
男性	50 歳代	「誰もが住みよい」というより、「誰もが安心して暮らせる」という考え方で取り組んでほしい。
男性	50 歳代	身近なところでの相談窓口や市役所の窓口などを、わかりやすく行きやすくなっていったらいいと思う。

性別	年齢	誰もが住みよいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望(抜粋)
女性	50 歳代	①市内の歩道整備をお願いしたい。歩行者と自転車との区別は進んでいるようですが、歩道との段差や、舗装状態が悪く、高齢者やベビーカーを押して難しい箇所が多くあります。②障がい者や高齢で選挙会場に自力で行けない方がいらっやいます。各福祉施設での対応も無いようです。大学や商業施設での投票は可能になってはいますが、交通弱者と言われる方々へのサービスや対応を改善して、より住みよいまちづくりをお願いしたい。
男性	50 歳代	警察の方々のパトロールの強化をお願いしたいです。不審者の訪問や強盗、空き巣などの犯罪を未然に防ぐ対策をしていただきたいです。よろしくお願い致します。
女性	50 歳代	いろいろな人が社会を構成している。寛容な社会、そういうところを大人が理解していくべきだと思います。若者を含めた子どもたちは大人になるにつれて身勝手さを真似ているのです。啓発や意識改革は大人にこそ必要だと思います。若者を含めた子どもたちは大人の言動をみています。そのことを大人は知って、見本手本となる言動ができる様にアップデートをすべきだと思います。`大人が変われば`を`大人が変わらなきゃ`に変更した方が良いと思います。
女性	50 歳代	空き家を減らす。田を宅地に変え、新たな住宅地を増やさない。山林の日当りを良くする。川をきれいにする。町をきれいにする。農家を大切にする。今の社会が、悪い体質、弱者を作っていると思います。支援は必要ですが、何でも支援でやってもらうことが当たり前になっている様に思います。自己責任、自分の身は自分で守る事がベースで、人の手助けができるのではないのでしょうか。
女性	50 歳代	佐賀市では福祉のことなどいろいろなことに推進及び向上を図っていたのを、このアンケートで知りました。生活していくうえで知りませんでした。年に1度、健康診断が無料でできるので、その時に私みたいに知らない人は(高齢者など)「佐賀市では福祉のことでこんなことをしているの、何か困ってる時はこちらへ連絡(相談)して下さい」の話をさせていただくと、知ることができるかなと思います。
女性	50 歳代	子育て中の方も老人の方も充実できるような政策をしてほしい。SNSなどは若い方は活用できているが、コミュニティなどに参加できないお年寄りの方もいらっやるので、そこが課題ではあります。旧佐賀市も末端まで目をいきとどかせてほしい。「再犯防止」の案件はそこにも充実度が必要だが、犯さないための犯したらどうなるかの道徳的な面を、子どもの頃からと、社会にでてからと、すりこみが大事だと思うので、そういう学習や研修も人として生きていく上での人間度がUPできるような、生きがいもてるような会社、チームができるように、1個人の問題ではなく、こういう時に行政が動いてほしい。
女性	50 歳代	計画は作る事が目的ではなく、計画のモニタリングと外部評価によって、真なる計画に値するものであること。 質問項目が画一的であり、佐賀市の少数地方都市の独自性が見えない。金太郎飴になってしまった質問肢が大変残念。 地域福祉計画こそが、地域色を出し、行政横並びの実態を打破し、佐賀市は〇〇を重点的に果敢に対応し、第5次計画において■■を達成すると明確な目標を市民に強くアピールして欲しい。 加えて、1 期～5期まで、佐賀色が示される同一の設問から、比較検討できる普遍的な回答傾向により住民意識の動向をしっかりと把握し、地域市民に実情をしっかりと示してもらいたい。
女性	50 歳代	高齢化が進む中、幸いにも佐賀(私の周り)ではたくさんの子どもを授かっている家庭を多くみえます。とても貴重な存在です。こういう家庭に住みやすい環境、教育の環境、経済的支援、など…未来の為にどんどん先行投資をして欲しいです。住みたいと思ってもらえる佐賀市にして欲しいです。具体的にはインターナショナルスクールを作って欲しい。人気出ると思います。佐賀市に移住者も増えると思います。ご検討ください。
男性	50 歳代	障がいがあっても年を取ってもいつまでも働くことで健康を維持するような町だと良いと思います。障がいや介護状態になったといっても、皆さんがサービスやお世話(介護)を受けるだけではなく、就労の場があれば生きがいや生活意欲に自立に結びつくのでは。 就労と健康寿命の延伸が結びつく町づくりを是非検討して下さい。
男性	60 歳代	都会の様な発展は望んでいませんが、子育てしやすく社会保障の充実などにより若い世帯が佐賀を選んで住んでくれる魅力ある県になってほしいと思います。自然豊かな部分も生かしてほしい。市役所だけが頑張っても出来る事は限られていると思いますし、市民の協力、官民が協力して頑張してほしいし、私も第一線から退いたら今迄出来なかった様々な地区行事、ボランティアに参加したいと思います。

性別	年齢	誰もが住みよいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望(抜粋)
男性	60歳代	親が子に教える。身の丈に合った生活をする事を身をもって教える。福祉サービスを受けるにしても、当たり前ではなく、ありがとうと感謝する気持ちを持つことが大事。
男性	60歳代	自治会の編成そのものにこの先の不安を覚えます。高齢化が進み、世帯人数も減少して行く中で、先の問題にも答えた通り、地区によって行事に休日の殆どが潰される。
男性	60歳代	高齢者比率が高まる中で、民生委員、保護司の「なり手」がなく、民生委員に至っては、住民より高齢者が増えています。報酬含め待遇面の見直しが必要ではないかと感じます。保護司に至っては、無償ボランティアという事もあり、尚厳しい状況です。私の住んでいる地区でも、来年12月からの民生委員に「なり手」なく困っています。
男性	60歳代	高齢者社会の中、高齢者はパフォーマンスが落ちているので、支援しようにもできない。一方、行政は予算不足・人員不足で手が回らない。解決策はみえません。例えば、川掃除。高齢者と女性が増加し、川の中に入って掃除をする人が減少しているうえ、高齢者を川の中の作業にはまかせられない。行政で川掃除しようにも予算不足。負のスパイラルに入っていますか。
女性	60歳代	地域、隣近所のコミュニケーションが絶対的に必要であると思う。
女性	60歳代	長生きは良いのですが、周囲の人に迷惑をかけないようにしたいものです。何の為に生きているのか希望を与える仕事を見つけてあげ、体を毎日動かし、笑顔で元気に活動してゆけたら幸せに思います。私は農家ですが、畑の野菜を育てていると色々な幸せが見つかるものです。まだ幸せを知らない人々に自然にふれる喜びを感じて欲しいといつも思います。私の祖母は100才まで長生きしました。いつも畑にいました。プレゼントなら野菜の苗が一番嬉しいと笑顔で答えていました。野菜はいつも小さかったけど。
女性	60歳代	年金生活者には物価高の日々を先ずはなんとか暮らしていく事で精一杯の毎日です。住みよい町づくりより暮らしやすい安定した日常が望まれる一番の事です。また近所には空家が存在し、のらネコ、カラス、ハト、スズメバチ等の害獣等や成長しすぎた庭木がありとても住みよい町づくりには…。空家対策、カラス対策こそ優先して取り組んでいただきたいと思います。
男性	60歳代	地域福祉計画や活動計画を作成されたら、制度の内容や市として協力いただきたいことについて、周知・普及をもっとやって欲しい。具体的には、市が校区単位で地域に出向いて、関係者(自治会、校区社協、老人クラブ、サロン、民生委員、食改協など)を集めた場所で説明・意見交換を実施して欲しい。地域福祉の取り組みの必要性や重要性はわかっている人は多いが、具体的な知識や取っかかりがなくて進まないという面があると思います。
男性	60歳代	地域連帯のためには古い隣組的な親密性が必要。そのためには居住している住民の信頼関係を取り戻す施策が必要。
女性	60歳代	子供達が自宅内で遊ぶのではなく、地域で安心・安全に過せる様になったら良いと思います。子供食堂の数を増してほしいと思います。
男性	60歳代	1. 移住してきた人間も参加できる地域活動の紹介などがあるといいと思います。美化活動、文化交流会、祭りなど。2. すれ違い時の「あいさつ」活動は街ぐるみでもっと盛り上げるとよいと思います。ポスター、TVなどで広く呼びかける。
女性	60歳代	現在、私は職場をリタイアし、地域の行事やまち協などに参加することができますが、仕事を持っていた時は、職場以外の様子を知り、関わる余裕などなかったように思います。底上げする1歩として、その状況の中に入って知ることができないのなら、その職場、学校などでの啓発活動が重要になるのではないかと考えています。研修の義務づけ。
男性	60歳代	住みよいまちづくりも定義が人によって異なると思います。ガチガチにしぼるルールではなく、ゆるやかなしぼりで住民同士がつながっていける取組みが長く続き、効果もあると思います。昔からある子供クラブや老人会などの活動を支援して仲間の輪を広げていくことが大事だと思います。誰か一人とか少数の者の頑張りだけでは難しいように感じています。
女性	60歳代	地域でどうすることが問題になっているか、行政でも把握し問題の解決へと進めてもらいたい。待っていても問題解決にはならない。
男性	60歳代	福祉に関する様々な制度やサービス等についての広報活動の充実を希望致します。
男性	60歳代	福祉ではないが、地域の活動として河川清掃を見直してほしい。世代交代が進まず、参加者の高齢化が進行し、非常に重荷となっている。
男性	60歳代	佐賀市の豊かな自然環境を保全(再興)するネイチャーポジティブ担当部署を創設する。

性別	年齢	誰もが住みよいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望(抜粋)
女性	60歳代	問42～47に関しては回答が難しかったです。犯罪の種類(極端に言えば万引きと殺人)によって刑罰は異なると思います。本人が刑期を終えたら元の生活に戻れると思っている人も多いと思いますが、それでは困ります。確かに犯罪をした人を社会から排除、孤立させるのではなく受け入れる事も必要だと思います。刑務所出所後は更生施設などでボランティアも含めて何年か生活して社会に戻れるかどうかを判断してほしいです。
女性	60歳代	高齢者が免許を返納しても外出可能な手段の手配を行政が主導で行えないでしょうか。通院、買い物等でタクシーの利用者が多い。バス利用だと便数が少なく、かなり不便が多い様子。
女性	60歳代	外国人ではなく日本人で困っている人への福祉を優先すべき。外国人観光客は歓迎するが定住する外国人は増やすべきではない。労働力が必要ならば日本人の若者が佐賀でやりがいのある仕事ができるよう行政も努めるべき。
女性	70歳以上	頼れる家族がない場合の身元保証や死後の手続き等、民間の保険会社はあるかもしれませんが、公的機関でもそのようなことができればと思います。
女性	70歳以上	自治会、民生委員さんが高齢者となり、中々相談したくても気の毒で遠慮してしまう。若い人に補助を出し、協力してもらいたい。今の世の中スマホ時代だが、高齢者はタクシーの申込みできません。よろしく願います。坂井市長様。
女性	70歳以上	友人が軽い認知症になり`おたっしや本舗`を知りました。その友人は今も何とか1人で暮らしています。友人の親族は県外に住んでいて、`おたっしや本舗`がどんな仕組みなのか、公共の所なのか、疑問に思いなかなか理解してもらえませんでした。県内にいる人も、どんな仕事をするのか、知らない人が多いと思います。活動内容も市報等で知らせてもいいと思います。
男性	70歳以上	災害時の障がい者の支援方法が定まっていない。かけ声だけになっている。各所の水害で堤防が決壊した場合の避難方法や場所が解らない。(どの辺まで水没するか)
女性	70歳以上	高齢者、生活困窮者施策も大事ですが、なにより少子化が一番問題でまったなしです。もっともって社会に対してPRしていただき、住民が理解を深めていく様に施策していただきたいと思います。
女性	70歳以上	老人介護の面から考えると、私の周囲にも介護保険を使ったデイケアやデイサービスを利用する人も多いですが、費用がかかるため利用しないという人もいます。そこで、高齢者が集まって楽しく過ごせて孤独にならないですむ場所があるといいなと思います。できれば、公民館の中にあるといいのではないのでしょうか。
女性	70歳以上	再犯防止も必要だが被害者の救いと残された家族への資金及び相談の方を充実させてほしい。
女性	70歳以上	犯罪の質問は特に複雑でした。生活困窮者が増えています。自殺する人が増えない事を願っています。特に母子家庭。
男性	70歳以上	高齢者ふれあいサロン等の参加しやすい体制作り、声かけによる広報の充実
女性	70歳以上	コミュニティーバス(循環)を走らせて欲しい。バス停が遠かったり不便(市役所・駅)な場所への乗り入れか、もう少し便利であると中心地にも出掛ける機会が多くなるのではと思います。考慮して欲しい。
女性	70歳以上	スマホ等無い為、紙での情報提供を充実して欲しいです。文字も大きくして欲しいです。
男性	70歳以上	まずは地域での組織である自治会の活動を充実させることが大切と思う。その為には行政の支援の充実が何よりも重要と思う。
女性	70歳以上	今年から元気アップ教室が始まっています。お世話してくれる人が先頭になり、進めてもらって人数も13人くらい集まり、今は皆さん元気に活動しています。高齢になると責任者がなかなか決まらず先に進めなかったけど、自治会長さんに話しを進めてもらって教室が開けるようになりました。6月から始めています。地域での催しものは責任者問題でなかなか先に進むのが困難のようです。
女性	70歳以上	福祉が進んでいる外国では小学生の時より福祉教育が盛んに行われている様です。よろしく願います。いろいろ福祉のことで考えていただいている様で有難うございました。
男性	70歳以上	それぞれに生き立ち、生活環境、性格の相違有り、自己中ではなく、聞く耳を持ち理解に務める。自己の考えを述べても強要せず相手を認める。
女性	70歳以上	住民と行政が協働して地域福祉を進めることは大事なことだと思います。各地域に福祉委員などがおかれていますが、役員さんの負担になったり、責任を押し付けることのないようにしなければいけないと思います。犯罪者に対する質問もありましたが、個人で手を差しのべるのはむずかしく、やはり公の機関でないとできないことが多くあると考えます。

性別	年齢	誰もが住みよいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望(抜粋)
女性	70歳以上	私は義父95歳、母99歳認知症、主人63～74歳若年アルツハイマーと、三人を介護して思ったことは、家族、親戚にも毎日の生活が在りますので、介護者にも家に訪問して話を聞き、支援があってほしい。介護者にも支援を考えて下さい。
女性	70歳以上	時が移り過ぎている中で、新しい制度や、紙面等で情報は耳にしますが、最後の未端の具体的な声が分からず、不安があります。例えば災害時の避難等に対しては、誰がどのような方法で、いつの時点で声かけ等してくれて話等してくれること等です。
男性	70歳以上	住みよいまちづくりのための意見や要望を聞くための方法を、まちづくり専門の大学の先生や生徒の専門家の方々と十分検討して頂き、その解答をもとに決めていただきたい。その中で、①計画立案の為の人選、②先進地視察の計画、③希望的町づくりの為の調査事項及びその内容について検討などをめれなく行うことを実施していただきたい。
男性	70歳以上	我々は、団塊の世代なので、5年後には全員が80歳代になります。そうすると車の免許証を返納する方々が増えてきます。家族が近くにいればいいですが、家族が遠方にいる場合、困ることが、買い物、ゴミ出し、冬場の灯油買い出し、郵便局・銀行、JAバンク・コンビニでのお金の出し入れ、病院訪問等が容易に出来なくなる。私の場合は、現在76才で5年後に81才になり、子供達は皆関東在住です。80歳を超えたら免許証の返納を考えざるを得ません。現在、買い物は近くのスーパー迄20km、ゴミ出しは1.8km離れています。近隣には、上記の事を頼める方はいません。上記の事が頼める信頼できる方が必要です。これからの高齢化社会での福祉活動は、集まってもらう福祉から各戸・各家庭が抱える課題サポート福祉が絶対必要と考えます。
女性	70歳以上	私感として、高齢化に伴う一人暮らしが進む中、共に地域での生活が重要になってきます。自宅から300m圏内の日常生活がおくれる地域であったなら…。子供、高齢者といった社会的に手助けが必要な方々への支援になると共に、穏やかに日常がおくれる町づくりにつながるのでは、と思います。各地域での小公民館を拠点としてつながりあえる町創り、心豊かに日々が過ぎせる地域であって欲しいと願います。テーマの「誰もが住みよい」として日々励まれご努力いただいている関係者の皆様へ感謝します。
男性	70歳以上	我が自治体では、一人暮らしの高齢者宅を民生委員の方が、年1～2回と思いますが、訪問されている様ですが、健康状態の把握や今の世の中犯罪が多発していると思われるので、防犯に対しての体制の確認のため、もう少し訪問を増やしてもらおうと助かりますし、住みよいまちづくりの一環にもなると思いますので、お忙しいとは思いますが事情斟酌くださいますようお願いいたします。(※高齢者の健康状態は急変します)
女性	70歳以上	私自身高齢のため積極的に活動することはできません。でも出来ることがあれば参加したいと思っています。今自分の趣味で茶道、香道の稽古に参加しています。これらはあまり強い運動能力は必要としません。町内での公民館でも取り組む活動をされてはいかがでしょうか。特に茶道は立ったり座ったりする運動ができるように感じます。他の人との交流の場ともなると思います。
女性	70歳以上	佐賀市中心部と周辺地域とは事情が少し違ってくると思うが、少子化高齢化に向けて、ダイバーシティ、ユニバーサルデザインなど佐賀も変化していると思います。あの佐賀が(笑)行政と市民が一緒になって、更なる進化を望みます！頑張りましょう！（私は無理のない範囲で）
女性	70歳以上	高齢者の運転免許返納がすすめられています。1人暮らしの高齢者の場合、重い荷物を買い物で持ち帰るのに、車は必要です。佐賀市の大型スーパーで配達システムが充実してくれれば助かります。市としてそんな働きかけが出来ればいいのですが。
女性	70歳以上	高齢者や障がい者、もちろん外国人の人も参加し易いボランティアを増やし、短時間で楽しんで参加すれば、徐々にボランティアが活発になると思う。ボランティア＝無償のイメージを無くし、現金ではなく佐賀ポイントみたいなもの(がばいさかえーpay)を付与したら、参加する人も増えると思う。ポイントはゴミ袋、バス券等と交換できる様にしたら最初は掃除から始めれば入りやすいし、それから地域福祉に入っていけたらと思います。
男性	70歳以上	もうちょっと、簡素なアンケートにして欲しい。本当に市が取り組もうとしていることに焦点を合わせるべきだと思う。



## Ⅲ 調査総括



## 1 あなた自身のことについて

アンケート調査の回答者の内訳をみると、「男性」より「女性」が多くなっており、年齢では「70歳以上」が最も多く、「60歳代」をあわせた60歳以上の高齢者層が5割以上を占めます。

また、本調査から、オンラインによる回答を併用しましたが、全回答のうちオンライン回答は約4分の1でした。オンラインによる回答は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられました。

家族構成は「二世帯世帯（親と子）」が最も多く4割近くを占めていますが、「ひとり暮らし（単身）」も2割弱ありました。

居住年数は「30年以上」が、就労状況は「仕事はしていない」が最も多く共に4割近くを占めますが、これは回答者に高齢者が多いことに起因していると考えられます。

健康状態に関しては、「とてもよい」と「よい」をあわせた『よい』という回答が8割近くを占めています。

外出の頻度では、7割近くが「ほぼ毎日」と回答していますが、「年に数回」という回答も若干数あります。

生活上の困り事では、4割近くの方が「困り事がある」と回答し、その内容としては、「経済的なこと」、「身体・病気」が多くなっています。

## 2 「地域」との関わりについて

住んでいる地域への愛着については、「とても愛着がある」と「愛着がある」をあわせた『愛着がある』が6割近くとなっていますが、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」をあわせた『愛着がない』も1割近くあります。

近所づきあいの状況については、「とても親しく付き合っている」と「親しく付き合っている」をあわせた『親しく付き合っている』が全体の3分の1ほどとなっていますが、「ほとんど付き合いはない」も1割強となっており、特に、年齢が若く、居住年数が短い方にその傾向がみられます。

近所づきあいが無い理由としては、「関わる機会や時間がないから」が7割強、「あまり面識がないから」が4割弱となっています。

一方、地域での人と人とのかかわりについては、「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」、「地域を良くする活動をみんなで協力し合っていきたい」が多くなっていることから、地域での活動や行事などへの参加を促し面識を作ることが、近所づきあいを深める契機になると考えられます。

「日常生活上で手助けが必要になったとき地域の人にしてほしい支援」と「身近なところで困っている人がいた場合にできると思う支援」に対しては、「災害時の手助け」、「安否確認等の定期的な声かけ・見守り」、「日常的な話し相手・困ったときの相談相手」などが上位を占めており、「してほしい支援」と「できる支援」が一致していることから、両者を調和させるような、地域での支え合い・助け合い体制の強化が必要と考えられます。

### 3 あなたの「福祉」に対する考えについて

福祉への関心度については、「とても関心がある」と「ある程度関心がある」をあわせた『関心がある』が7割以上を占めていますが、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」をあわせた『関心がない』も2割近くみられます。「あまり関心がない」は「10～40歳代」の比較的若い世代が多くなっていますので、若い世代の福祉への関心度を高めることが更なる底上げにつながります。

関心がある福祉分野としては、「高齢者に関する福祉」が最も多くなっていますが、次いで「子どもに関する福祉」が多く、特に、子育て世代である「20～30歳代」および当事者である「10歳代」が最も多くなっており、6割ほどの割合を占めています。

福祉のあり方については、「行政と住民が連携しながら、協力して支え合うべき」が7割近くを占めており、地域福祉に関する課題に対する住民同士の助け合いや支え合いの必要性については、「とても必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」をあわせた『必要だと思う』が8割を占め、行政と住民が連携しながら、住民主導による地域での支え合いや助け合いの必要性が重視されています。

また、住んでいる地域の課題については、「一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯に関すること」、「住民同士のつながり（つながりが薄いなど）」、「大雨などの自然災害に対する地域の防災に関すること」が多くなっています。また、自身ができることとして、「見守りや声かけ」、「地域行事への参加や協力」、「防犯・防災に関する活動」などが多くなっていますので、地域の身近な問題について自分なりに手を差し伸べることができると考えている方々から可能な範囲で協力や参加を得ながら、地域の福祉課題に対応していく必要があります。

### 4 地域活動や福祉に関するボランティアについて

地域活動やボランティア活動の参加状況では、「現在参加している」と「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」をあわせた『参加経験のある』が6割台半ばを占めていますが、「参加したことがない」も3割台半ばほどあり、特に「20～30歳代」の若い世代が多くなっています。

参加したことがない理由としては、「20～30歳代」では「どのような行事や地域活動があるかわからない」が、「20～30歳代」と「60歳代」では「知り合いがいらないために参加しにくい」が多くなっていますが、働き世代である「20～50歳代」の最も多い理由は「時間が合わない、時間的余裕がない」となっています。

一方、今後の地域活動やボランティア活動の参加意向については、「参加したい」と「機会があれば参加したい」をあわせた『参加したい』が5割強あり、「10～70歳以上」の全年齢層において、「参加したいと思わない」を上回り「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。これは、潜在的な需要があることを示しており、「時間が合わない、時間的余裕がない」という働き世代の参加を促す配慮を行うことで、地域活動やボランティアへの参加者の増加が見込めると考えられます。

## 5 「福祉サービス」に関することについて

福祉サービスの情報入手では、「あまり入手できていない」、「入手できていない」をあわせた『できていない』が7割台半ばを占めています。

福祉サービスに関する情報の入手先としては、全体では、「市の広報誌」、「自治会の回覧板」が最も多くなっていますが、「インターネット上のホームページやSNSなど」については、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」と共に2割近くを占め、性別による差がほとんどなく、年齢が低くなるほど利用が多くなっています。男女を問わず若い世代への広報・啓発手段として、ホームページ・SNSなどのインターネット媒体の利用が有効と考えられます。

福祉サービスの利用が必要となった時の相談先としては、「家族や親族」が最も多く、次いで「市役所等の公的機関」が多くなっています。

福祉サービスの利用に関する行政の取り組みとしては、「情報提供の充実」、「相談体制の充実」などを求める回答が多くなっています。

## 6 地域福祉に関わる機関や団体、制度について

認知度の高い地域福祉に関わる機関や団体、制度については、「地域包括支援センター(おたっしゃ本舗)」が最も多く、次いで「佐賀市社会福祉協議会」となっています。また、直接かかわったことのある地域福祉に関わる機関や団体、制度でも、「地域包括支援センター(おたっしゃ本舗)」が最も多くなっています。

「民生委員・児童委員」の活動内容に関しては、「民生委員・児童委員及び活動内容も知っている」は3割弱、「民生委員・児童委員は知っているが活動内容はわからない」は5割弱ほどとなっていますが、「知らない」も2割強あります。また、「知らない」の割合は年齢が低くなるほど多く、若年層ほどその存在や活動内容を知らない状況となっています。

民生委員・児童委員の制度を知っている方の中で、自分が住んでいる地区を担当する「民生委員・児童委員を知っている」方の割合は5割強で、約半数の方が「知らない」と回答しています。「知らない」の割合は年齢が低くなるほど多くなり、「民生委員・児童委員」の活動内容の認知度と同じ傾向となっています。

## 7 災害時の避難について

災害などの緊急事態が発生した場合の適切な避難の可否については、「できると思う」が4割近くと多くなっていますが、「できないと思う」も16%ほどみられます。「できないと思う」は「女性」に多く、年齢別では、「20歳代」と高齢層の「70歳以上」に多くなっています。

また、地震や台風などの災害時に不安に思うことについては、全体では、「災害時の緊急の連絡方法や連絡先がわからない」が最も多くなっていますが、「女性」では、「避難場所まで自分一人では行けない」も多くなっています。

災害発生前の備えとして重要だと思うことについては、「危険箇所の把握」が最も多く、年齢別でも、「60歳代」以下の幅広い年齢層で最も多くなっています。また、「日ごろからの隣近所とのあいさつ、声かけや付き合い」は「70歳以上」で最も多くなっています。

このことから、「60歳代」以下の自分で避難できると考えている年齢層では危険箇所が

特に意識され、自分一人では避難することが難しいと感じている高齢者では、近隣との関係による支援を意識している傾向がみられます。

近所の避難行動要支援者の避難支援員になることについては、「できる」、「その人との付き合い具合によってはできる」、「複数の人と協力してならできる」をあわせた『できる』が全体の3分の2ほどとなっており、災害時の避難に対する意識の高まりがうかがえますが、「避難行動要支援者支援制度」の認知度については2割強しかありません。

したがって、災害時の危険箇所や緊急の連絡方法などを含めた情報の周知・啓発や、「避難行動要支援者支援制度」の推進が求められると共に、地域で避難支援を必要とする方を把握し、日ごろからの隣近所との関係づくりが重要になってくると考えられます。

## 8 生活困窮者の自立支援について

生活困窮者の自立支援については、「自身や身近な人に問題を抱える人はいないが、必要な制度である」と「自身及び身近な人に問題を抱える人がいるため、必要な制度である」をあわせた『必要な制度である』が全体の8割近くを占めています。

生活困窮者の自立支援に向けて市が行うべき支援としては、「相談支援窓口の充実」、「ハローワークと連携した仕事の斡旋」、「職業訓練などの就業支援」が多くなっています。

## 9 外国籍の方との関わりについて

近隣の外国籍の方との付き合いについては、「全くない」、「周りに外国籍の方がいない」および「ほとんどない」で9割弱を占めています。一方、「親しく付き合っている」、「あいさつする程度のつきあいはある」をあわせた『付き合いがある』は1割弱となっており、付き合いのある場所としては「隣近所や地域の中」や「仕事や職場」が多くなっています。

外国籍の方との交流において困っていることでは、「言葉の違い」、「文化や習慣の違い」が多く、外国籍の方との相互理解を深めるために地域で必要と思うことについては、「日常的にあいさつをする」、「差別意識を持たないようにする」、「生活する上でのルール等を外国籍の方に知ってもらう」などが多くなっています。

## 10 再犯防止に関することについて

全国の刑法犯認知件数が平成14年（2002年）をピークに減少傾向にあり、佐賀市においても、市町村合併をした平成19年（2007年）と比較すると、令和5年（2023年）には合併当時の3割程度まで大きく減少していることについて、「知らない」が9割ほどとなっています。また、刑法犯認知件数が減少している一方で、検挙者に占める再犯者の割合（再犯者率）が50%近くで高止まりしていることについても、「知らない」が9割近くとなっています。

加えて、再犯防止に関する広報・啓発活動（「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」）についても、「両方とも聞いたことがない」が6割強を占めるなど、犯罪統計や再犯防止に関する取り組みに関する認知度は低いものとなっています。

再犯防止に関する民間協力者の認知度についても、「保護司」、「少年補導員」、「更生保護

施設」など一部の民間協力者についての認知度は高いものの、その他の民間協力者の認知度は低いものとなっています。

犯罪をした人の立ち直りへの協力については、「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」、「犯罪をした人と、関わりを持ちたくないから」、「犯罪をした人と、どのように接すればいいかわからないから」が上位を占めていることから、犯罪をした人との関わり合いそのものに不安を覚える意見が多くなっています。

一方、「再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる『誰一人取り残さない』社会の実現が大切である」という意見については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』は全体の7割近くを占めていることから、再犯防止活動自体には賛成するものの、自分自身が関与することには抵抗を感じる人が多いと考えられます。

## 11 今後の地域福祉のあり方について

令和3年度の第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画により策定された推進項目に対する評価として、「わからない」が最も多くなっています。向上したと回答された項目としては、「災害時の避難体制の強化」、「気軽に集える新たな居場所づくり（コミュニティカフェ等）の推進」、「地域の見守り（福祉協力員）など身近な助け合い体制の強化」などがあります。

一方、「わからない」が全項目において最多を占めていることは、情報の発信・周知不足、情報を受ける側の無関心によるものと考えられます。このため、策定した施策の推進と共に、「わからない」を少しでも減少させる取り組みが重要だと考えられます。

住み慣れた地域で安心して暮らしていくために住民としてできることとしては、「地域活動にできる範囲で参加する」、「できるだけ地域の出来事に関心を持つ」をあわせた『できるだけ参加・関心を持つ』が5割台半ばと、参加意識や関心を持つことの必要性を感じている方が多くなっていますので、これらの方々を『積極的に参加する』に移行させる施策が求められます。

なお、「地域活動に積極的に参加する」、「地域活動にできる範囲で参加する」は「男性」が多くなっていますが、「近隣の人とあいさつをする」は「女性」の方が多くなっています。

「地域活動にできる範囲で参加する」は「60歳以上」が、「できるだけ地域の出来事に関心を持つ」は「20～30歳代」が多くなっています。

今後、市が優先的に取り組むべき施策としては、「高齢や障がいによって要介護になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」、「身近なところでの相談窓口の充実」、「高齢者、障がいのある人の入所施設の整備」など、支援が必要な方に対する福祉の充実を望む声が多くなっています。

地域福祉計画・地域福祉活動計画  
改定のためのアンケート調査報告書

編集・発行 佐賀市 保健福祉部 福祉総務課

〒840-8501 佐賀市栄町1番1号

TEL 0952-40-7250

FAX 0952-40-7393

E-mail [fukushisomu@city.saga.lg.jp](mailto:fukushisomu@city.saga.lg.jp)